２０２２年３月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

３月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１７日（木)、広島拠点放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、前回の審議会での答申を受け「２０２２年度中国地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「２０２２年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について説明があった。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。その後、放送番組モニター報告と視聴者意向、４月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜「２０２２年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について＞

○　九州地方や四国地方などとは違って、中国地方は一体感がないような印象がある。新番組の「コネクト」では、中国地方５県にそれぞれ深く関わっていく番組作りを目指してほしい。

○　「ラウンドちゅうごく」がそうであったように、「コネクト」でも山陰地方と山陽地方をつなぐような番組制作に力を入れるよう期待している。

（ＮＨＫ側）

「コネクト」は毎月第２、４、５週に中国ブロック向けの番組を放送する予定で、中国地方の取り上げ方については議論を重ねてよりよい番組作りを模索していく。

＜放送番組一般について＞

○　３月４日(金)ラウンドちゅうごく「見落とされた虐待リスク　～岡山女児死亡事件の真相～」を見た。事件を時系列で伝えていたうえ、問題点を３つに整理していたこともあり分かりやすかった。母親の交際相手の特定が出来なかったために虐待への対応に遅れが生じたと知り、虐待の加害者は親に限らないことが分かったものの、その点を深掘りしなかったのは残念だった。コロナ禍で、虐待の実態が見えづらくなっている現状についても、丁寧に伝えたほうがよかったように感じた。官民が連携し虐待に対処している好事例を紹介していた一方で、ゲストで児童相談所の所長を務めた方の意見が行政側の視点に基づいているように聞こえたほか、虐待の防止には児童相談所への重ねての通告が有効だという旨の発言は、児童相談所の実態を軽視しているようにも受け止められ、それぞれもう少し配慮が必要だったように感じた。児童相談所の体制を含めた課題をはじめ、行政や国の施策のあり方にも触れる必要があったのではないかと感じた。

○　３月４日(金)ラウンドちゅうごく「見落とされた虐待リスク　～岡山女児死亡事件の真相～」を見た。岡山市を管轄する児童相談所が１つしかなく、増え続ける案件に対応が追い付いていないように感じたうえ、実際に求人募集を出しても人が集まらないとも聞いており、児童相談所に関する構造的な問題について深く取材してもよかったのではないか。行政と民間が協力して虐待に対応している好事例や、ＡＩを取り入れて対応している自治体の事例を紹介していたが、それらの取り組みについてもう少し詳しく知りたかった。虐待防止に本来は国や自治体が主体的に関わるべきであって、番組では地域や民間団体等の協力も得ていくことも１つの手段だと紹介していたが、頼り過ぎてしまうと彼らに負担や責任が重くのしかかる可能性もあると懸念される。これからも取材を続け、明らかになった課題を視聴者に伝え

ることができれば、地域社会の意識も変わってくるように思う。

（ＮＨＫ側）

世間の関心の高い事件で、悲劇を繰り返さないため再発防止につなげたいという視点で番組を制作した。行政の取り組みだけでは対応が難しい現状もあり、官民が連携して実績を上げている事例を紹介した。児童相談所の置かれた現状や虐待の実態について今後も取材を続け、再発防止につながるような番組制作に取り組んでいく。

○　３月４日(金)ラウンドちゅうごく「見落とされた虐待リスク　～岡山女児死亡事件の真相～」を見た。連日伝えられる耳を疑うような虐待の様子に心を痛めており、この番組が女児の母親とその交際相手が岡山地検に送られた日に放送されたことはとても時宜を得ていると感じた。子ども食堂を通じた虐待防止への取り組み事例の紹介で、食堂のスタッフが子どもたちのふだんの会話を聞き逃さないように気を付けていると言っていたので、その場にいた子どもたちの会話に字幕スーパーを入れたほうが分かりやすかったようにも感じた。女児の母親とその交際相手がどういった考えで虐待に及んだのかとても気になっており、虐待防止に向けた対策の紹介だけにとどまらず、加害者の心理状況を分析、解明するような取材もぜひ続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

子ども食堂のスタッフと子どもたちの日常のやり取りの様子を伝えようと、何気ない会話のシーンを見せようとした。捜査が進められている事件ではあるが、視聴者の関心が非常に高い話題でもあり、丁寧に取材して伝えていきたい。

○　３月４日(金)ラウンドちゅうごく「見落とされた虐待リスク　～岡山女児死亡事件の真相～」を見た。虐待の様子を見聞きするのは非常につらかったが、知っておくべきことだと思って最後まで見た。とても丁寧に取材されていたと感じた。子ども食堂などを通じて地域の人々に見守られている子どもたちがいる一方で、そうした枠組みから漏れて孤立し、情報も得られない子どもたちに対して何ができるのか

とても気がかりになった。自らが虐待を受けていることに気付くことができない子どもたちもいるので、総合やＥテレで随時放送しているアニメ「もしかして…」シリーズはとてもよい取り組みで、これらが子どもたちの一助になればと願う。

（ＮＨＫ側）

子どもたちが自分で虐待に気が付くのは難しい場合もある。取り扱いに慎重を期す問題ではあるが、専門家とも相談しながら公共メディアとして真摯（しんし）に取り組んでいきたい。

○　３月４日(金)さんいんスペシャル　インタビュー　ここから「強さのその先へ～女流棋士　里見香奈～」(総合 19:30～19:55 島根県域)を見た。２月に放送された番組を再編集したものだが、対局会場の出雲文化伝承館に関する詳しい説明や、地元である島根県や出雲市に対する里見さんの思いが足されていて、楽しく見ることができた。

（ＮＨＫ側）

全国放送した際に頂いた指摘を意識して制作した。これからも視聴者の視点を意識した番組作りを行っていきたい。

○　３月４日(金) Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　花鳥風月に恋して」を見た。県内の４か所をテンポよく紹介しており見やすかった。宇部市のフクロウと触れ合えるカフェを取り上げた際に、フクロウの生態についての紹介があり興味深く見ることができた。年配の方の出演が多かったものの軽快な曲をＢＧＭで用いるなど若い世代を意識しているのもよかった。取り上げた地域の一覧やそれぞれの地図を表示していればより見やすくなるように思った。

○　３月４日(金) Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　花鳥風月に恋して」を見た。「情報維新！やまぐち」で放送された企画の総集編ではあるものの、未公開シーンも含まれており楽しく見ることができた。花の生産者を訪ねていたが、初めて知る内容ばかりで興味を持って見ることができた。また「情報維新！やまぐち」へ投稿を続けているアマチュア写真家の撮影風景への密着取材を見て、撮影する１枚１枚

の写真にそれぞれ思いが込められていることがよく伝わってきた。訪ねた４つの地域のうち２か所が防府市だったので、県内のさまざまな地域を取り上げるとより楽しくなると感じた。

（ＮＨＫ側）

より分かりやすく、より楽しい番組となるように工夫を重ねていく。頂いた意見を制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　３月４日(金)中国!ちゅーもく!ラジオ「まるっと☆しまね」を聞いた。津和野町出身の画家・安野光雅の作品について、描かれた風景や色使いを分かりやすく説明しており、言葉だけで情景が思い浮かべられ実際に絵を見に行きたくなった。司会を務めた北村紀一郎アナウンサーの巧みな進行により、作品に込められたメッセージに加え画家を育んだ津和野町についても詳しく知ることができた。電話やリモートによる出演にスタジオ参加と三者三様の出演方法は時勢に即していて、ゲストのそれぞれ含蓄のある言葉で番組を楽しめたが、田中輝美さんの発言が少なかったようでもったいない気がした。

（ＮＨＫ側）

田中さんは地域ジャーナリストであり、絵画を中心に進んだ会話には少し加わりづらかった部分があるのかもしれない。頂いた意見を現場に伝え、今後の番組作りに生かしていく。

○　３月１１日(金) ラウンドちゅうごく「ドライブ・マイ・カー　広島に導かれて」(総合　20:00～20:25　広島県域)を見た。映画の撮影中はあまり注目されておらず、当時の撮影現場の様子や濱口竜介監督へのインタビューはとても珍しく、広島県にゆかりのある映画関係者が軒並み出演していることもあり、とても貴重な番組だと感じた。当初、韓国で予定されていた映画の撮影が新型コロナウイルスの影響で国内での撮影に変わり、広島がロケ地に選ばれた理由として、広島のもつ文化的な力や歴史的な背景が強く影響していたことが描かれていたこともよかった。メディアの持つ力は非常に大きく、映画や文化を積極的に取り上げて人々の関心を引きつけ、

それが文化の持つ力を再生するきっかけになればと願っている。引き続き、広島県の文化を取り上げる番組制作を希望する。

○　３月１１日(金) ラウンドちゅうごく「ドライブ・マイ・カー　広島に導かれて」を見た。この映画はノミネートされているアメリカのアカデミー賞の発表を目前に控えるなど時宜を得ているうえ、とても見応えのある番組だった。最初は広島で撮影することにためらいを感じていた濱口監督が、不幸な歴史を肯定的にとらえ直し前向きに生きている広島の人々の姿と広島の文化的な厚みに気が付いて、広島で撮影する覚悟を決めたというところに強い説得力を感じた。ロケ地の持つ力が、脚本や演出、俳優やスタッフを通じて映像作品に昇華していく様子を番組で実感した。広島県出身で被爆三世でもある映画監督の森ガキ侑大さんにインタビューしていたが、広島に縁のなかった濱口監督が広島で映画を撮影する意味を考察するのであれば、それぞれの監督の背景が違うために少し焦点がずれてしまったような気がした。例えば戦争を経験していない世代が広島や戦争にどう向き合うのかという視点で尋ねていれば、もっと厚みのある話になったのではないかと思い少し残念に感じた。

（ＮＨＫ側）

広島の歴史や文化が映画に与えた影響について描くことができたと思う。広島の文化を取り上げていくことは重要だと考えており、今後も継続して取り組んでいきたい。広島を舞台に作品を制作することの意味について、頂いた意見を今後の取材・制作に生かしていきたい。

○　３月１１日(金) ラウンドちゅうごく「ドライブ・マイ・カー　広島に導かれて」を見た。映画撮影当時の取材映像や濱口監督へのインタビューが収録できていたことで、時宜を得ていまこの番組を制作したような印象を受けた。原作が村上春樹の短編小説で、その作品はいくつも映画化されていることから、作品の魅力を軸に番組を構成したほうがより面白くなったのではないか。濱口監督が広島をロケ地として選ぶときの葛藤が描かれていたが、広島にゆかりのある制作者が広島を扱うことはより重い意味を持つように感じたので、この点について考察を深めたほうがより面白かったように思う。また、濱口監督の広島での撮影の決断を後押ししたとされ

る広島市環境局中工場に建築家が込めた思いや背景についても深掘りすれば、より面白くなったのではないか。

○　３月１１日(金) ラウンドちゅうごく「ドライブ・マイ・カー　広島に導かれて」を見た。映画の撮影現場の様子を収めたわずかな映像と当時の濱口監督のインタビューを軸に番組を構成していたものの、継続取材がなされていなかったためかもの足りなさを感じた。タイトルに「広島に導かれて」とあるが、広島をロケ地に選択するに至った過程や、広島を作品の中に取り込んでいった演出上の工夫、広島と作品との関わりの重要性などについて詳しく語られることがなく、散漫な印象を受けた。この番組の放送時期が、映画の公開された昨年９月ではなくアカデミー賞にノミネートされた後だったことにも少し疑問を感じた。ゲストで美術監督として活動する部谷京子さんのコメントはいずれも的確でよかった。

○　３月１１日(金) ラウンドちゅうごく「ドライブ・マイ・カー　広島に導かれて」を見た。広島で映画を撮影することへの考察をもっと深めてもらいたかった。映画が評価されている点は闇の部分を緻密に見せる普遍性だと伝えていたものの、番組からはそのような部分が伝わってこなかった。広島には、再生や復興、平和という前向きな言葉が持つ力に押しつぶされ、表面化しない言葉や思いがあるとふだんから感じており、この点は森ガキさんも触れていたので、ぜひもっと深掘りして伝えてほしかった。また、濱口監督とふだんからつながりのある人々からのコメントもあればなおよかったと感じた。

（ＮＨＫ側）

頂いた数々の意見は今後の番組作りに生かしていきたい。

○　３月１１日(金) さんいんスペシャル「同居人は“水中モグラ”」(総合 20:00～20:25　島根県域・鳥取県域)を見た。生態があまり知られていないカワネズミの研究を続ける大学院生を長期間の密着取材で丹念に追ったドキュメンタリーで、彼女との信頼関係を構築して制作したことが伝わってくる面白くて温かみを感じる番組だった。鳥取県若桜町の雪深さを愛おしむ様子や、心から研究を楽しむことへの揺らぎのない心境について、彼女独特の何気ない言葉が秀逸で、視聴者の心に深く

響いたのではないか。専門家による客観的な解説や、カワネズミに関するデータの紹介があれば、さらに分かりやすくなったのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

関連企画を「いろ★ドリ」で放送した際に頂いた指摘を意識して制作した。

○　３月１６日(水)「情報維新！やまぐち」の特集「多様性認める社会へ　ゲイをオープンに生きる」を見た。家族へのカミングアウトについての心の動きや実際の様子がひしひしと伝わり、取材相手との信頼関係がきちんと築けている様子がうかがえた。地域おこしのために出身地の東京から山口県へやってきた彼がやがて移住し、バーを開業して、性の多様性について考える場を提供していることは非常に意義があると感じた。ぜひこの番組を、ＮＨＫプラスなどを通じて全国で視聴できるようにしてほしい。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫでは「＃ＢｅｙｏｎｄＧｅｎｄｅｒ」をテーマに取材や番組制作を進めており、山口局でも昨秋から取り組みを進めている。多様性について考えるニュースや番組作りを続けていきたい。

○　コロナ禍により外出が減ってテレビを見る時間、特にＮＨＫを見る機会が増えたが、子育て中の女性からは子どもが楽しめる番組が少ないという声も聞くので、子ども向けの番組を増やしてはどうか。

（ＮＨＫ側）

今月から４月にかけて、島根県の子どもたちを取り上げた番組のアーカイブス編成を予定しているので、子どもも含めた幅広い世代の方に見ていただけるよう工夫したい。

○　３月５日(土)ＥＴＶ特集「原発事故　幻のシナリオ～埋もれた遮水壁計画～」を見た。地下水の汚染を防ぐため遮水壁を早急に構築するという実現しなかった計画

の有効性について紹介していて、ＮＨＫらしく非常に厚みのあるよい番組だと思った。

○　北京五輪の閉会式を担当していた塚本貴之アナウンサーが、北京の街で偶然すれ違った少年との逸話を紹介し、感動を呼ぶ物語として広く話題になるなど聞いていてすばらしいと感じた。

（ＮＨＫ側）

新型コロナウイルスの影響で現地の人たちへの取材が制限される中、北京大会の様子を何とかして伝えようと考えて先の逸話を伝えたのだと思う。委員から頂いた声を本人に伝えたい。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２２年２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１７日（木）、広島拠点放送局（ウェブ開催）において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、１２月２６日(日)に放送したＢＳ１スペシャル「河瀬直美が見つめた東京五輪」の内容について報告があった後、「２０２２年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」についての報告があった。引き続き、「２０２２年度中国地方向け地域放送番組編集計画（案）」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。その後、放送番組モニター報告と視聴者意向、３月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
	笠原　　浩	（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜「２０２２年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について＞

○　「２０２２年度国内放送番組編集の基本計画」の「編集の重点事項」のうち「５．多様な価値を認め合い、ともに生きる社会を目指した放送・サービス」について、出演者の選定にあたり、ジェンダーバランスなどを意識し多様性を取り入れるための具体的な数値などを示したガイドラインはあるのか。

（ＮＨＫ側）

具体的な数値を明記したガイドラインは無いが、出演者を決める際にはジェンダーや年齢構成などのバランスをとることにしている。

○　「２０２２年度国内放送番組編成計画」の「６．インターネット活用業務」のうち「４．他の放送事業者が行う配信業務への協力」について、民放公式テレビポータルサイトＴＶｅｒにＮＨＫの番組を提供することになった経緯と、提供している番組の概要を知りたい。また、ＮＨＫプラスやＮＨＫオンデマンドで見られる番組がＴＶｅｒでも見られることがあり得るのか。

（ＮＨＫ側）

ＴＶｅｒ側からの打診があったことをきっかけに、ＮＨＫの放送番組に触れていただく機会を増やし、放送の視聴と公共メディアの理解増進につなげることも目的に、既に放送した番組の中から福祉番組など公共的な価値を持つ番組を選択してＴＶｅｒ経由でも番組の配信を開始した。ＮＨＫは放送法で広告を禁じられており、他人の営業に関する広告をＮＨＫ放送番組に付与しないほか、ＴＶｅｒの広告収入はＮＨＫには配分されない。ＴＶｅｒ経由で配信している番組は、ＮＨＫプラスでも配信している番組である。

＜「２０２２年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」について＞

○　今年は瀬戸内国際芸術祭があるので、芸術を扱う番組が増えることを期待している。また、防災に関する情報の充実も求めたい。ＮＨＫプラスのコンテンツが増えることや、ＮＨＫアーカイブスの充実にも期待したい。「ＮＨＫニュース　おはよう日本」など朝のニュースで、若い世代の活躍や全国各地の話題を積極的に取り上げて、その日一日を元気で過ごせるような明るい話題を伝えていくことを今後も楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

瀬戸内国際芸術祭に向けて、これまで芸術を育んできた背景をはじめ、芸術を地域ぐるみで支えてきた人々についても取り上げることを検討している。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫプラスに関する意見は本部にも伝える。

○　諮問された「２０２２年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、委員から出された意見の趣旨が具体的な番組編成に尊重されることを前提に、番組審議会として原案を可とする答申をしたい。

○　異議なし。

（ＮＨＫ側）

本日の答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、３月の番組審議会で編成計画について説明したい。

＜放送番組一般について＞

○　１月２０日(木)「いろ★ドリ」内のシリーズ「精鋭」で取り上げられていた「謎の生物追う研究者に密着」を見た。若桜町でカワネズミを研究する大学院生に長期間密着取材を行った企画で、彼女が夢中になって研究に勤しむ様子から、好きなことに打ち込むことの素晴らしさや、知恵と工夫で困難を乗り切ろうとする情熱がよく伝わってきた。１０分程度の内容であったが必要な要素がテンポよく映し出され、ＢＧＭも場面に即しており引き込まれて見ることができた。希少なカワネズミが生息する豊かな自然を育む若桜町についても紹介していれば、鳥取県の魅力をより多くの人々に伝えることができたのではないか。

（ＮＨＫ側）

長らく取材を続けてきたディレクターが、撮りためてきた映像を生かして制作した。頂いた指摘は担当者に伝え今後の制作に生かしていく。

○　１月２１日(金)ラウンドちゅうごく「岐路に立つローカル鉄道　～過疎と災害激

甚化の中で～」を見た。問題の要点を押さえた内容で、全国の実例を紹介するなど丁寧に取材して制作していた。ゲストの日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介さんのコメントも的確で、解決策の１つとしてヨーロッパにおける上下分離方式を挙げていたが、税金が使われることで公共財としての意識づけができるうえ、沿線住民のより積極的な関与も促すことができる優れた考え方だと思った。この問題は中国地方に限ったものではなく日本各地で生じていると思う。ヨーロッパにおける事例を取材するなど問題をさらに深掘りし、全国に向けて放送してほしいと感じた。

○　ラウンドちゅうごく「岐路に立つローカル鉄道　～過疎と災害激甚化の中で～」を見た。鉄道に限らず地方の公共交通は経営的に非常に厳しい状況に立たされていると感じる。公共交通はみんなで支えないと維持できないものだと一人ひとりが認識することが重要で、今回のようにＮＨＫが放送を通じて問題提起していくことは非常に意義のあることだと思う。

（ＮＨＫ側）

取材を通して、沿線の住民たちが当事者意識を持って課題に取り組もうとしていることが伝わってきた。地域交通の在り方については引き続き取材を進めていく。

○　ラウンドちゅうごく「岐路に立つローカル鉄道　～過疎と災害激甚化の中で～」を見た。過疎化や効率化の波にあらがい全国各地でローカル鉄道の経営に尽力する人々の熱い思いに共感した。赤字を理由に鉄道の廃止とバス転換が各地で進められる中、「くま川鉄道」がバスよりも鉄道のほうが地域に好影響をもたらすことを実証してみせた姿は非常に頼もしく、同じ境遇にある関係者にとって好事例となるのではないか。ゲストの藻谷浩介さんのコメントは的を射ていたうえ、字幕でも表示していたのでとても分かりやすかった。世界的に見て鉄道経営が黒字であるほうが珍しいという指摘は初耳で、あらゆるものを経済的な観点のみで判断する風潮を見直すべきだという意見はもっともだと感じた。地域の課題に対してみんなで向き合い解決策を見つけ出す大切さを教えてくれた番組で、このような番組をぜひシリーズで制作してほしい。

○　ラウンドちゅうごく「岐路に立つローカル鉄道　～過疎と災害激甚化の中で～」を見た。自然災害からの復旧工事が進まず休止路線を抱えるローカル鉄道がいくつもある中、国や自治体が費用を負担して線路の復旧を進めた「くま川鉄道」での取り組みは他の事業者にとって好事例になると思う。世界的に見て鉄道経営が黒字であるほうが珍しいことや上下分離方式が一般的だというゲストの指摘を聞き、公共交通に対しても経済的な視点でのみ考えてしまう風潮があることに気づかされた。地方に暮らす人々にとって鉄道が有用な移動手段であることの説明も分かりやすく、公共的な視点で物事を考えるきっかけを与えてくれるよい番組だった。この問題は多くのローカル線を抱えるＪＲにとって参考になると思うので、今後の推移についてぜひ取材してもらいたい。

（ＮＨＫ側）

全国各地の事例を参考にしながら課題に対する解決策を模索しようと考えて制作にあたった。鉄道を公共財として捉えている事例など、多様な考え方を伝えることができたのではないか。鉄道に限らず、例えば映画や図書館といった文化や芸術施設についても同様で、地域でそれらをいかに大切にしていくかは重要なテーマである。中国地方の鉄道の在り方について今後議論が進められていく予定で、取材を続けていく。

○　１月２１日(金)Ｙスペ！「“スゴ技術”×高校生　バスツアー」を見た。声優の植田佳奈さんの軽妙なナレーションや島田莉生アナウンサーの色鮮やかな衣装が楽しい雰囲気を醸し出していた。番組序盤では県外で就職したいと言っていた高校生たちが、県内の地元企業とその事業内容を実際にいくつも目にすることで意識が変わっていく様子が見られ、とても興味深かった。それぞれ出身や将来の希望が異なる高校生をどのように選んだのかが気になった。今回は各企業の研究や開発に携わる部門を訪問していたが、シリーズ化して他の業種や職種を訪ねる企画を制作してはどうか。高校生をはじめ若い世代を取り上げた番組を今後も制作してもらいたい。

（ＮＨＫ側）

高い技術力を誇る地元企業の活躍ぶりを知れば、若者の県外への流出を防げるのではないかと考えて企画した。高校生は希望する進路や地域バランスを考慮して選んだ。頂いた意見を参考に、今後のシリーズ化も検討していきたい。

○　Ｙスペ！「“スゴ技術”×高校生　バスツアー」を見た。植田さんのナレーションがメリハリのある話し方で、とても聞きやすかった。世界トップクラスの生産規模や技術を誇る企業が山口県にいくつもあることが紹介され、初めて知ることでとても興味を持った。今回は高校生の県外流出を防ぎたいという切り口だったので、各社の高校生の採用者数や、地元出身者の割合なども紹介したほうがよかったと思うし、一度県外に出てもＵターンして働く選択肢があることを示してもよかったのではないか。また、高校生が海外に勤務する社員と話ができる機会を設けていれば、事業規模の大きさをアピールできたと思った。参加した高校生が環境問題に関していくつか尋ねていたが、企業からの回答が十分ではないように感じ疑問が残った。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　１月２８日（金）さんいんスペシャル「島根原発２号機再稼働の判断をめぐって」を見た。多くの情報が盛りこまれており、学ぶところの多い番組だった。産業界など原発再稼働に前向きな意見のほうが若干強い印象も受けたが、番組自体はあくまで再稼働の判断を巡る課題を明らかにするという構成であった。例えば、原発の再稼働は進めてもいいが課題もある、といった流れで番組を進めればより分かりやすかったと思う。原発については様々な議論があり、番組では交付金や放射性廃棄物などについて取り上げていたが、再稼働の判断をする際に多くの要素を検討し始めると方向性が定まらなくなると感じた。番組後半で取り上げていた再稼働などの事前了解権に関する説明は非常にわかりやすかった。この問題に対する中国電力や島根県、松江市の姿勢についても詳しく解説しており、当事者が出演すればより迫力のある番組になったと思う。

（ＮＨＫ側）

原発再稼働推進派・慎重派両者の意見を丁寧に追いながら、視聴者にも主体的に考えてもらう構成を目指した。推進派の意見を先に紹介したことや、記者解説で細かく触れたことで再稼働に前向きな意見が強いという印象を与えてしまったのかもしれないが、それぞれの意見の扱いに差をつけたことはない。原発の再稼働をめぐる議論については「しまねっとＮＥＷＳ６１０」をはじめ「さんいんスペシャル」でも引き続き取り上げていく予定だ。

○　１月２９日(土)ラウンドちゅうごく「あのときを取材中＠山陰山陽放送局　わが県　発掘映像ＳＰ冬」を見た。中国地方各地の過去の出来事が丁寧に取材され、当時の貴重な映像を見ることもできて大変ありがたいと感じた。山陰地方には、５月２８日(金)ラウンドちゅうごく「あのときを取材中＠山陰山陽放送局　わが県　発掘映像ＳＰ」で取り上げていた、日露戦争末期に航行不能となったロシア艦船イルティッシュ号の乗組員を住民が救助した島根県江津市での出来事のほかに、鳥取県岩美町で引き上げられたロシア将兵の遺体を住民が埋葬したという逸話もあり、ぜひ「さんいんスペシャル」でも取り上げてもらいたい。一方、動画や記事などのコンテンツをＳＮＳでも公開しているとのことだが、ＮＨＫが制作したコンテンツを見るために個人情報を外部のＳＮＳサービスに登録しなければならない仕組みに抵抗を感じるうえ、懐かしい映像を見て楽しみたいと思う高齢者にとってはこのようなサービスは享受しづらいのではないか。コンテンツの展開を放送とホームページに限るか、もしくはＮＨＫが既存のＳＮＳに代わるサービスを新たに設けるなどして、さまざまな人が気軽にコンテンツを楽しむことができる環境を整えて欲しい。

（ＮＨＫ側）

番組コンテンツはＳＮＳだけではなく、ＮＨＫ広島放送局のホームページでも公開している。掲載しているサイトへの案内をわかりやすくするといった工夫を考えたい。山陰地方におけるエピソードについては、番組に取り上げることも検討したい。

○　１月２９日(土)「手仕事の国・鳥取～菊池亜希子“民藝（みんげい）”をたどる旅～」(総合 10:55～11:45 中国ブロック)を見た。「いろ★ドリ」内で昨年放送したシリーズ企画をまとめたものだったが、非常に見ごたえのある内容に仕上がっており、鳥取県以外の視聴者にとっても興味深く見ることができたのではないか。

○　１月２９日(土)「アニメ聖地旅　竹原～広島・“たまゆら”の舞台へ～」(総合 22:40～23:05 中国ブロック)を見た。竹原を何度も訪ねたことがあるが、竹原の魅力を新たな視点で感じられる内容になっていたと思う。アニメファンとして知られるＫｉｓ－Ｍｙ－Ｆｔ２の宮田俊哉さんが竹原の町の散策を心から楽しんでいる様子が描かれており、アニメへの愛情の深さも感じられた。宮田さんの素直な反応に心を動かされ番組に引き込まれたので、キャスティングの重要性を改めて認識した。アニメ「たまゆら」の映像が随所に挿入されていたため、作品を知らない視聴者にとっても竹原とこの作品との結びつきの強さがよくわかる構成になっていた。全国に向けて放送すれば、多くの視聴者に喜んでもらえると思う。今回の企画はシリーズ化されるのか。また公開から１０年以上経過している「たまゆら」を、なぜこのタイミングで取り上げたのか疑問に感じた。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫプラスの見逃し配信でもよく見られ、ホームページやＳＮＳ上でも多くの反響があった。今回は単発の特集番組として放送したが、中国地方にはアニメや映画の舞台となった地域がいくつもあるので、続編の制作についても検討したい。今回の番組の企画に際して、中国地方の魅力をしっかりと伝えられる作品にしようと考え、この作品を選んだ。

○　「もぎたて！」をよく見ている。夕方６時台のニュース情報番組について、ＮＨＫは民放と違って岡山県の情報に特化しているが、北京五輪期間中の「もぎたて！」が時間を短縮していたのは少し残念だった。「もぎ天気」のコーナーは、気象情報を丁寧に解説していてわかりやすいうえ、双方向の機能を用いた視聴者参加型のクイズにより、子どもたちにとっても興味を持ちやすく、視聴者の防災や減災への意

識を高めることにつながるよい企画だと思う。視聴者にクイズのアイデアを求めたり、県内各地の特徴的な天気に関するクイズを出題したりするとより面白くなるのではないか。また土日の夕方に岡山県向けのニュースを試行すると聞き、期待している。

（ＮＨＫ側）

五輪期間中も岡山県のニュースを普段通りに伝えてほしいという声がある一方で、五輪放送を伝えることも求められるなど、今後も地域放送の在り方について議論を続けていきたい。また「もぎ天気」のクイズを視聴者から募ることを早速検討したい。県の北部と南部とで大きく天候が異なる日もあるなど地域によって天気に特色があり、県内各地の視聴者とともに作るコーナーになればより興味を持ってみてもらえると思う。頂いた貴重な意見は制作現場とも共有し、番組内容の向上に努めたい。

○　１２月２６日(日)ＢＳ１スペシャル「河瀬直美が見つめた東京五輪」に関する調査報告について、会長が会見で「スポーツ番組だったためにチェックが甘くなった」という趣旨の発言をしていたが、今回の番組は東京五輪公式記録映画の監督を追ったドキュメンタリーであり、仮にスポーツ番組であったとしても事実確認は十分になされるべきで、会長の発言はよくなかったのではないか。また、五輪に対する多様な声を取り上げたいとしてＮＨＫが取材した人の中から当該男性を選んだとのことだが、この男性にインタビューを行った公式映画製作者が事情を最も把握していると思われるのにもかかわらず、それら関係者の判断を仰がずに人選を行ってしまったのはおかしいと感じた。この番組が「報酬をもらってデモに参加した」という声を作り出したために、東京五輪反対デモに参加した人々の印象を悪化させてしまったことに対する問題意識が薄いと感じる。

（ＮＨＫ側）

いただいた意見については後日改めて回答する。

○　２月１１日(金)インタビュー　ここから「女流棋士　里見香奈」を見た。島根県

の誇る人物を取り上げていたのでとても嬉しかった。冒頭で番組概要を簡潔に伝えていたことや、彼女の成長過程が多くの映像資料で描かれていたこと、将棋界の仕組みについて図を用いて詳しく説明していたことで、とても分かりやすい内容になっていた。転戦するのにあわせて、各地からオンラインインタビューを行っており、昨今の情勢に即していると感心した。それぞれ字幕でインタビュー先の場所が示されていたが、対局に合わせて地元の出雲文化伝承館で収録した際は地図を入れるなどして、全国の視聴者に島根県をアピールしてもよかったのではないか。一人の人物を取り上げて詳しく紹介する番組はおもしろいので、中国地方の人物を取り上げる番組に力を入れてほしい。

（ＮＨＫ側）

思うようにいかず苦しむ時期もあったが、それを見事に乗り越えて目覚ましい活躍を見せる里見さんを丁寧に描くことができた。３月４日（金）の「さんいんスペシャル」でより詳しく紹介するのでぜひご覧いただきたい。指摘のあった会場の紹介について、地域の魅力を発信していくためにも今後検討していく。

○　「ＮＨＫニュース　おはよう日本」を見た。スタジオのアナウンサーが中継先とやり取りをしている中で、相槌を打つ際にくだけた話しことばを用いていたことがあり、違和感を覚えた。ＮＨＫの魅力の一つにアナウンサーが使うことばの美しさがあると考えており、改善されることを期待している。

（ＮＨＫ側）

正しい日本語を伝承することもＮＨＫアナウンサーの使命の一つと考えている。内輪での会話をしているかのように視聴者に感じさせることがないよう、今後注意していく。

○　五輪中継について、以前平昌五輪でフィギュアスケートの羽生結弦選手の演技後に中国の放送局の解説者が漢詩でその偉業を称えたことがあった。選手はそれぞれ五輪に向けて長らく努力してきた過程があるので、競技をきちんと伝えることに加えて、各選手の軌跡なども伝わる実況になれば視聴者の感動もより強まるのではな

いかと感じた。

（ＮＨＫ側）

五輪放送はＮＨＫおよび日本民間放送連盟とその加盟各社とでジャパンコンソーシアムという組織を構成して制作しており、ＮＨＫの放送で民放のアナウンサーが実況をするということもある。実況時の主体が選手であることを念頭に置いているが、さらに視聴者の感動を呼べるよう努力を続けていきたい。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２２年１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島拠点放送局（ウェブ開催）において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、１２月２６日（日）に放送したＢＳ１スペシャル「河瀬直美が見つめた東京五輪」の内容について報告があった後、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、２月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅ　ハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１２月２２日（水）かが屋のコント「広島県」（総合 10:50～11:15 中国ブロック）を見た。３つのコントのうち宮島の大鳥居の修復工事を取り上げたものは時宜を得ておもしろかった。一方、路面電車を舞台にしたコントで出演者がマスクを着用していないことが気になって番組に集中できなかった。先を行く路面電車を自転車で追いかけるシーンがあったが、安全性が確保されているのか心配になった。どのような視聴者を想定して制作した番組なのかがわからなかった。また単発の特集番組なのか、続編が制作されるのかも少し気になった。

（ＮＨＫ側）

若年層に見てもらいたいと考え、いま勢いのあるお笑いコンビの

かが屋をゲストに迎えてコントを通じて広島県のさまざまな魅力を紹介しようと制作した特集番組で、中国地方向けに放送した。指摘のあった路面電車のシーンでは、道路使用許可を得ている旨を画面に表示していたが、今後は見やすく表記したり表示する時間を長くしたりするなど配慮したい。

○　１月７日(金)ラウンドちゅうごく「大学生冬物語～コロナと過ごす青春～」を見た。４人の大学生の表情を豊かにとらえており、大変共感できる内容だった。映像表現やＢＧＭで使用した曲、温かみを感じるナレーションも心地よく、番組の構成も大変よかった。４人それぞれの暮らしぶりや、思い、悩みの吐露、会話などで学生生活の現状を描き出していたが、例えば専門家による解説で番組を締めくくってもよかったのではないかと感じた。今回は主に課外活動について取り上げていたが、学びの実情についても知りたいので続編の制作を期待している。

○　ラウンドちゅうごく「大学生冬物語～コロナと過ごす青春～」を見た。コロナ禍に見舞われた学生が、悩みながらも学生生活を充実させようと努力する姿を取り上げていたが、一方でもっと厳しい状況に置かれた学生もいるのではないかと感じている。やる気が失われた学生や、居場所を見つけられず独り悩み苦しんでいる学生もいると思うので、そうした学生や若者を取材した番組も制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

新型コロナ関連の取材を続けているディレクターが学生の窮状を伝えたいと制作した。専門家の意見を聞くなどして多様な視点からテーマを描き出すことも検討したい。若者の置かれた状況については引き続き取材を続けていく。

○　１月７日(金)さんいんスペシャル　ニッポン島旅「島根・大根島　牡丹（ぼたん）がつなぐ家族の島」を見た。島の風土に調和した牡丹栽培の営みを美しい音楽と映像で描き出しており、引き込まれて見ることができた。数ある牡丹園が軒並み後継者不足に悩んでいる一方、後継者も少しずつ現れ牡丹栽培の技術や心意気がきちんと継承されている様子を見て、大根島を再訪したい気持ちになった。大根島の名前の由来や番組で紹介していた図鑑の入手方法を紹介したほうがより親切な気が

した。

（ＮＨＫ側）

多くの視聴者の方に見てもらうことができた。引き続き島根県の魅力を取り上げて紹介していきたい。

○　１月８日(土)Ｙスペ！「＃ＢｅｙｏｎｄＧｅｎｄｅｒ　隣のセクマイさん」（総合 前10:55～11:20 中国ブロック）を見た。セクシャルマイノリティーである人々の暮らしぶりや、彼らがストレスとして感じる無意識の偏見やマイクロアグレッションの解説と対策、近年広がりつつあるパートナーシップ制度の紹介など、この課題を多岐にわたってきちんと取材して伝えており、現状や課題がよく分かる内容でとてもよかった。男性ゲストがピンク色の衣装を着ていたことについて、似合うかどうかの話に終始せず、性別によって色分けを行うことの問題にまで話題を発展し掘り下げるべきではと感じた。今回のテーマはとても繊細なものであり、専門家に意見を求めながら制作することを提案したい。

（ＮＨＫ側）

昨年９月から「＃ＢｅｙｏｎｄＧｅｎｄｅｒ」をテーマに企画や番組を制作している。頂いた意見を参考に今後の番組制作に生かしたい。

○　１月１４日(金)広島かたすみ食堂「おいしい！カッコイイ！気持ちいい！マニアもうなるニッチな世界」を見た。ディレクターが気負わずに取材していたためか、取材相手も自然体で臨んでいるようで楽しく見ることができた。福山市の仙酔島の紹介はとてもわかりやすくて魅力が感じられ、コロナ禍が落ち着けば行ってみたいと思った視聴者も多かったように思う。気軽に見ることができるので、若い世代にも楽しんで見てもらえる番組だと感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組では広島県の有名ではないが魅力的な場所や人物を紹介している。頂いた意見を今後の番組制作に生かしていきたい。

○　１月１４日(金)@ｏｋａｙａｍａ「瀬戸内ｄｉａｒｙ　～つなぐ～」を見た。高松局との共同制作と知り、香川県は日ごろから身近に感じており興味を持って見た。香川県にあるドローンで島に商品を運ぶ会社の紹介では、起業した若者が島の社会に溶け込もうと奮闘する姿に共感を覚えた。岡山県にある手紙が書ける古民家カフェの紹介では、人々が手紙を通じて相手に気持ちを伝えるのと同時に自らを顧みる姿が見られ印象的だった。それぞれ映像が美しく心地よく見ることができた。２つの物語を結ぶテーマとしては「つなぐ」よりも「届ける」といった言葉がふさわしい気がしたので、例えば番組の末尾で「つなぐ」をキーワードにコメントしてもよかったのではないか。

○　@ｏｋａｙａｍａ「瀬戸内ｄｉａｒｙ～つなぐ～」を見た。古民家カフェで過ごす時間がそのまま番組になったようで、見ていてとても心地がよかった。カフェで思い思いに手紙を書き、それぞれの気持ちを素直に表している様子が印象的だった。コロナ禍だからこそ手紙の温かさや気持ちを伝えることの大切さがよく伝わってくる番組だった。

（ＮＨＫ側）

岡山県のパートを担当したディレクターは、大学、就職と故郷を離れて暮らす中、手紙の大切さを実感していた。こうした経験も取材で出会った方々から素直な思いや表情を引き出すことに役立ったのかもしれない。高松局との連携は今後も進めていくつもりだ。頂いた意見は制作現場とも共有し、今後の番組制作に生かしていく。

○　１月１４日(金)さんいんスペシャル「ｅスポーツが地域を熱くする！」を見た。教育現場や部活動、企業の福利厚生、高齢者施設などにｅスポーツを導入し、魅力の増進や地域活性化、健康増進に生かしていくことはよい取り組みだと感じた。ｅスポーツになじみのない視聴者に向けた詳しい解説があれば、番組がよりわかりやすくなったのではないか。従来のロボコンのようにｅスポーツの大会を催すなどして学生を刺激すれば、将来的に日本経済を支える人材の育成につながると考えており、今後もこの分野の取材を続けるよう期待する。

（ＮＨＫ側）

ｅスポーツという言葉を初めて耳にする視聴者を想定し、指摘のあったように解説を入れたほうがよりわかりやすかったかもしれない。ｅスポーツはオリンピック競技になる可能性が取り沙汰されるなど注目を集めており、今後成長が期待される分野の一つだと考えている。地域おこしの起爆剤にもなりうるので、引き続き取材を行っていく。

○　「情報維新！やまぐち」を日ごろからよく見ている。新型コロナ関連の情報に加えて各支局からの地域に寄り添ったテーマが充実しているほか、話題の人物を積極的に取り上げて紹介するなど、とても見応えがあると思う。2021 年度からはスタジオのセットも一新されて明るい雰囲気になるなど、山口局が変わりつつあるように感じている。

（ＮＨＫ側）

引き続き視聴者に山口県のいまを詳しく伝えていけるよう努めていく。

○　１２月３０日(木)太平洋戦争８０年・特集ドラマ「倫敦（ロンドン）ノ山本五十六」（総合 後 10:00～11:13）を見た。日米開戦の７年前に山本五十六がロンドンで軍縮交渉に臨んだ際、本人の意向とは裏腹な海軍の方針に従って粛々と交渉を進めざるを得なかった葛藤を丁寧に描いており、ＮＨＫらしい質の高い番組だった。交渉決裂の後、国の将来を憂いて失意のうちに帰国した山本が日本国民に歓迎される場面は逆説的で非常に面白く見ることができた。よくできたドラマだが、山本の人物像について予備知識がないと分かりづらい部分があったかもしれないと感じた。終戦８０年の 2025 年８月まで大型シリーズ「新・ドキュメント太平洋戦争」を展開すると聞いており、期待している。

○　太平洋戦争８０年・特集ドラマ「倫敦（ロンドン）ノ山本五十六」（総合 後 10:00～11:13）を見た。山本五十六の捉えどころのなさから生じた迷いからなのか、香取慎吾さんの演技は内面を推し量れない模糊（こ）としたところがあり、そこが逆に面白く感じた。山本五十六の評価は定まっておらず、脚本家にとって描き方が難しかったと思われ、演技も非常に難しいものであったように思う。

（ＮＨＫ側）

太平洋戦争開戦から８０年という節目に合わせ、ドキュメンタリーやドラマなどを通じてさまざまな角度から当時を振り返る番組を展開している。なぜアメリカとの戦争に突入してしまったのか、機会をとらえて検証する取り組みは非常に大切だと感じている。

○　１月８日(土)ＦＭシアター「朝が生まれる」を聞いた。不妊治療をテーマに、生命の誕生には科学技術だけではなく自然の力や人の心が欠かせないというメッセージを伝えており、自然豊かな鳥取県を作品の舞台にしたことはとても意味があったと感じた。主人公を演じた松本妃代さんの静かな声は、この物語にぴったりでよい配役だった。一方で、カーテンを開けたときの音や、医療機器のモニターから聞こえる高い心音、キッチンタイマーの音など、感情移入の妨げになるような効果音がいくつかあり残念だった。鳥取県の方言と共通語が１つのセリフの中に混在していた部分があったが、統一したほうがよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

この番組のモデルとなった鳥取県にあるクリニックへの取材を重ねて臨場感のある音作りを追求した。話し方について、主人公の心の動きを表す独白のときは共通語を、地域の人々と会話するときは方言をそれぞれ使うようにしていたが、少しわかりづらかったかもしれない。指摘のあった点については制作現場とも共有し、今後の番組制作に生かしたい。

○　１月１２日(水) Ｚの選択「＃この仕事が好きな理由」(Ｅテレ 後 10:25～10:55)を見た。岐阜県と山口県で働く２人の若者を取り上げていて、いくつもの写真でそれぞれの人となりを紹介する場面や、落ち着いた映像や語り口がとても心地よく、番組の雰囲気に引き込まれた。仕事がテーマの回であったので、労働時間や１日の過ごし方など２人の仕事に関する基本的な情報も知りたかった。視聴者の中にはＺ世代という言葉を知らない人もいるので解説を入れるとよかったと思う。仕事を切り口に幅広い世代を取り上げて番組を制作しても面白いのではないかと感じた。

○　Ｚの選択「＃この仕事が好きな理由」を見た。山口県内の酒蔵で働く主人公が、大好きな仲間と一緒に酒造りに携わる様子がとても印象的だった。こういった番組をきっかけに酒造りに携わってみたいと思う若者が増え、多くの酒蔵が直面している後継者不足の解決につながっていけばと感じた。

（ＮＨＫ側）

Ｚ世代がどのように仕事と向き合っているか、２人の若者の様子を通じて伝えることができたと思う。頂いた意見を制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　１月１５日(土)「おはよう日本」を見た。新型コロナウイルスのワクチン開発で安全性の確認にカブトガニの血液が使われていることから、カブトガニの養殖事業を考えて高校生の起業コンテストで審査員特別賞を受賞した笠岡市の高校生の取り組みを取り上げていた。岡山県の話題が全国に紹介されるのはとても誇らしく、気持ちがいい。今後も地域の話題を全国に向けて発信してもらいたい。

（ＮＨＫ側）

地域に元気をもたらす話題でもあるので、「もぎたて！」などでも紹介できないか検討したい。

○　「青天を衝（つ）け」を通年で見た。渋沢栄一の人間愛や私心のないところ、誰に対しても平等に接するところなど、見ていて励まされるところ、感動するところが多々あり、１年を通じて楽しく見ることができた。大河ドラマで明治期の偉人を取り上げることが少ないように思うので、今回のような作品を期待したい。

○　１２月２６日(日)に放送したＢＳ１スペシャル「河瀬直美が見つめた東京五輪」の内容について、もし本当にお金をもらって五輪反対デモに動員された人がいたのであれば、そのこと自体がスクープであり、きちんと取材して伝えてほしいと思う。番組制作時のチェック体制の強化を図るとのことだが、報道に携わる者として取材に臨む姿勢そのものを見直す必要があると感じた。この番組によって五輪反対デモに参加していた人々への印象を悪化させたと思うので、事実がどうだった

のかをきちんと伝える番組を制作するべきではないか。

（ＮＨＫ側）

指摘を真摯（しんし）に受け止めたい。報道機関として最も守るべき、事実を確認するという作業を怠ってしまったことは本当に残念だ。再発防止に向けて一人ひとりの自覚を促すとともに、チェック体制を強化するなどして正確な報道に努めていく。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年１２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木）、広島拠点放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、１月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
笠原　　浩　（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１１月２６日(金)ラウンドちゅうごく「地方の命を守れ～鳥取で始まった救命救急改革～」を見た。鳥取県内に２つしかない三次救急を扱う救命救急センターに密着取材し、医療提供体制の改善に向けた取り組みをうまくまとめて分かりやすく伝えていた。改革に最前線で取り組む２人の医師に焦点を当てていたが、改革そのものを立案し実行した人物や、改革を後押しした枠組みについても知りたかった。オンラインで出演していた専門家のことばが聞き取りづらく、テロップによる補足があるとよかった。夜のヘリポートでアナウンサーが話すシーンから番組が始まったので、ドクターヘリが日没後も運用されているかのような印象を受けた。実際の運用は日中帯に限られており、視聴者を勘違いさせるような演出は避けるべきだと感じた。

○　ラウンドちゅうごく「地方の命を守れ～鳥取で始まった救命救急改革～」を見た。救命救急の最前線への密着取材を通じて得た情報をうまくまとめ上げており、緊張感を持って見ることのできるよい番組だった。過去に鳥取県の救命救急体制が窮地に陥ったことも取り上げるなど、取材対象にとって耳ざわりと思える内容に触れていたのもよかった。見どころの多い番組であっただけに、内容が分かるように小見出しのようなテロップを常時出しているとより理解しやすかったのではないか。番組を途中から見る視聴者に気付いてもらえるなど利点が多いので、ぜひ検討してみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

２人の医師はそれぞれ自らの意思で鳥取県での救命救急に携わるようになったと聞いており、その点を番組で紹介したほうが分かりやすかったと思う。委員からそれぞれ指摘のあった点について真摯（しんし）に受け止め、今後の番組制作に生かしていく。

○　１２月３日(金) ラウンドちゅうごく「がん治療の未来が変わる　～光免疫療法の衝撃～」を見た。がんの新しい治療法として注目される光免疫療法の可能性に迫る内容で、ＣＧによる作用の解説や実際にこの治療を受けている患者の体験談などにより非常に納得感を持ってみることができた。副作用が少ないうえ日常生活への負担が小さいため生きる希望を持つことができたという患者のことばが印象的だった。一方、最先端の治療法から得られるデータが今後のビジネスにつながっていくという話題の中で、大手企業の経営者が出演してコメントを述べていたり、シンポジウムやオンライン対談の背景に企業名のパネルが映っていたりするなど、ＮＨＫの番組としてふさわしくないと感じられる部分があり違和感を覚えた。

（ＮＨＫ側）

アメリカでこの治療法が始まった頃から長らく取材を続けてきたディレクターが制作を担当した。番組制作に際しては、宣伝・広告活動を行っていると受け取られないよう引き続き注意していく。

○　１２月３日(金)Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　自然！健康！食で元気に」を見

た。いつも楽しく見ているが、レポーターの衣装が少しくたびれてきたようなので新調してみてはどうか。また、ロケを行った時期によってマスク着用の有無が統一されていないことが気になった。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を制作現場とも共有し、改善に向けて検討を進めたい。

○　１２月１０日(金)ラウンドちゅうごく「女性を救うフェムテック革命！タブーが生んだイノベーション」(総合 後7:30～7:55 広島県域)を見た。フェムテックということばは知っていたが、およそ２兆円にも及ぶ大規模な市場に成長していると知り驚いた。司会の出山知樹アナウンサーと２人の女性ゲストが明るい雰囲気で進行していたため、男性にとっても比較的見やすい内容だったのではないか。地方においては、女性が働きやすい環境の整備や妊活支援といった各種施策は都市部に比べて十分ではなく、地域の視点でこうした番組を制作することはとても意義のあることだと思う。科学的根拠の面でまだ課題はあるようだが、それらを克服してフェムテックがより身近なものとなり、すべての人が自分の能力を十分に発揮できるような社会になればよいと感じた。

○　ラウンドちゅうごく「女性を救うフェムテック革命！タブーが生んだイノベーション」を見た。街頭インタビューを通じて女性の生の声を紹介したり、ある職場で開催された生理を知るための研修事例を紹介したりしていたので、女性の悩みがより実感を伴って視聴者に伝わったのではないか。番組のまとめの部分で、さまざまな関連商品が流通しているので慎重な見極めが必要なことや、医療機関にかかるのも重要であることを伝えていたが、これらはとても大事な情報であり番組内で随時伝えるべきだったように感じた。

（ＮＨＫ側）

今回取り上げたテーマは重要な問題の一つであり、視聴者の関心も高い。関連する分野も含めて引き続き取材を進めていきたい。

○　１２月１０日(金) さんいんスペシャル「民藝（みんげい）ブーム！鳥取が育んだ日常の“美”」を見た。ある飲食店の壁に数々の民芸の器が飾られていたり、幅広い世代に民芸品が日用品として愛用されていたりする様子を紹介しており、美しさと機能性を兼ね備えた民芸品の魅力がよく伝わったと思う。鳥取県のものを中心に紹介していたが、島根県にも民芸品がいくつもあるのでぜひ取材してほしい。“民藝”は山陰地方の強みの一つで全国的にも関心が高いことから、番組を全国放送やＮＨＫプラスで配信するなどして、山陰地方の魅力を広く発信してほしい。

○　さんいんスペシャル「民藝（みんげい）ブーム！鳥取が育んだ日常の“美”」を見た。“民藝”と呼ばれるものの魅力や有用性、定義について分かりやすく紹介していたが、日本各地における民芸品や、それらがいま注目を集めている要因についても伝えてほしかった。さまざまな民芸品を紹介していたため散漫な印象を受けてしまったので、何か一つに焦点を絞って掘り下げる演出でもよかったのではないかと思う。また、お笑いタレントをゲストに起用していたが、番組の中での彼女の位置づけがよく分からなかった。

（ＮＨＫ側）

“民藝”を取り上げた番組やシリーズ企画をいくつも放送していたので、説明が少しおろそかになっていたかもしれない。ゲストについては番組を楽しく見てもらおうと考えて起用した。それぞれ指摘を頂いた点を今後の番組づくりに生かしていく。

○　１２月１０日(金)Ｙスペ！「＃ＢｅｙｏｎｄＧｅｎｄｅｒ　隣のセクマイさん」を見た。スタジオのセットが洗練されていたうえ、ゲストにｒｙｕｃｈｅｌｌさんを招いたのもよかった。セクシャルマイノリティーについて分かりやすく説明したうえで、番組では“セクマイさん”と呼ぶことにするなど、少しでも番組が見やすくなるように工夫を凝らしている様子が随所に感じられた。山口県内に暮らす当時者への取材から、日常生活で感じる窮屈さや悩みを具体的に聞くことができ、今回のテーマをより身近に感じることができた。全国的に話題になっているものや課題をそれぞれの地域の視点から考えることはとても意義のある取り組みであり、今回のような番組を今後

も期待したい。

（ＮＨＫ側）

ジェンダーに関する問題を身近なこととして考えてほしいという思いから番組を企画した。大切な問題を真正面から取り上げつつ、興味を持って見てもらえるような演出を心がけた。

○　１１月２４日(水)「ロコだけが知っている」を見た。広島県の熊野筆に関する歴史や製造過程の紹介は一般的な内容にとどまり目新しさはなかったものの、地域が誇る逸品の魅力を全国に発信できたことはとても意義があると思う。出演者がとても豪華で番組の進行やＢＧＭも心地よく、質の高いバラエティー番組だと感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組は今年度後期から始まったもので、全国のＮＨＫ各放送局が連携して各地のさまざまな話題を掘り下げて全国に伝えている。各地の情報を広く発信するよい機会であり、今後も随時制作に携わって中国地方５県の魅力を伝えていきたい。

○　１１月２８日(日)小さな旅「ふるさとつなぐ～島根県温泉津町～」を見た。歴史ある温泉を代々大切に守りつづけてきた努力や、地域に根付いて活動する陶芸家の作品作りにかける熱い思いを知り、この地の誇りや魅力を改めて感じることができた。古くから重宝されてきたとされる石材の採石場を取り上げていたが、このことは地元でもあまり知られておらず、石の特徴などをもっと知りたかった。温泉につかる人々の会話がくぐもっていて聞こえづらかったので、字幕で補足するなどの工夫があってもよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

歴史ある町のたたずまいや美しい風景を重視して伝えようとしたため、説明が足りないと思われる部分があったかもしれない。頂いた意見は今後の番組制作の際の参考にしたい。

○　１２月４日(土)ノーナレ「“好と景の羅針盤”▽双子姉妹ひと夏の物語」を見た。ナレーションがなくテロップもほとんどない演出がとても新鮮に感じられた。集中して見ているうちに彼女たちの作り出す雰囲気に魅了され、それがさらなる視聴意欲をかきたてるなど、飽きさせない工夫がなされているように感じた。ただ２人の会話の途中とも思える部分で番組が終了してしまったようで、少し分かりづらかった。等身大の若者の姿を丁寧に取材しており、再放送を通じてぜひ彼女たちの存在をより多くの視聴者に知ってほしい。

（ＮＨＫ側）

ナレーションを用いないという演出手法で制作する番組で、テロップの使用も必要最小限に抑えたことで、じっくりと見てもらう状況を生み出し、出演者のことばや表情をしっかりと伝えることができたと考えている。

○　１２月４日(土)ＥＴＶ特集「昭和天皇が語る　開戦への道　前編　張作霖爆殺事件から日中戦争　１９２８-１９３７」、１１日(土)ＥＴＶ特集「昭和天皇が語る　開戦への道　後編　日中戦争から真珠湾攻撃１９３７－１９４１」を見た。歌舞伎俳優の片岡孝太郎さんが昭和天皇を巧みに演じておりとても興味深く見た。太平洋戦争開戦８０年に合わせて多くの関連番組を放送しているが、二度と過ちを繰り返さないためにも開戦に至った経緯について今後も検証を続けていく必要があると思う。

○　ＥＴＶ特集「昭和天皇が語る　開戦への道　前編　張作霖爆殺事件から日中戦争　１９２８－１９３７」、「昭和天皇が語る　開戦への道　後編　日中戦争から真珠湾攻撃１９３７－１９４１」を見た。誰もが無謀だと知りつつも開戦に至った経緯が再現ドラマを交えて分かりやすく描かれており、非常に質の高い番組だった。日中戦争の拡大を防ぐことができなかったうえ周囲の勢いに押されて日米開戦に突入してしまったと昭和天皇が振り返る場面は、同調圧力に影響されやすいとされるいまの日本の姿とも重なりとても説得力があった。現代社会とも共通する問題点を番組内で指摘してもよかったのではないかと感じた。こういった歴史を丁寧に検証する番組の制作を

今後も希望する。

○　ＮＨＫプラスをよく利用しているが、地域放送番組の配信予定の番組や配信開始時期が分かりづらい。配信する番組の基準や、放送から配信までのスケジュールを教えてほしい。また、ＥＰＧに掲載される番組表は１週間分だが、例えば放送が決まったものから順に１か月ほど先までの予定を掲載すれば、番組の告知にもなりテレビを見る人が増えるのではないか。

（ＮＨＫ側）

中国地方で放送する地域番組のＮＨＫプラスにおける見逃し配信の基準については、原則として、総合テレビで金曜日午後７時３０分からと、土曜日午前１０時５５分からそれぞれ中国地方もしくは広島県に向けて放送した地域番組を配信している。さらに域内４局で、総合テレビの金曜午後７時３０分から放送した地域番組の中から週に１本を選んで配信している。番組放送後から見逃し配信を始めるが、状況により配信開始まで時間がかかる場合もある。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年１１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１８日（木）、広島拠点放送局において、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、１２月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
鷲見　寛幸　（大山町教育委員会　教育長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
古市　了一　（株式会社ふるいち　代表取締役）
松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１０月２２日（金）ラウンドちゅうごく「獣害を転じて福となす～中国山地・雅ねえと住民たちの日々～」を見た。獣害への対策を巡って地元の住民同士が本気で言い争うシーンがとても印象に残った。取材相手との信頼関係が築けているからこそありのままの様子を撮影できたのだと感じた。山間部では特に獣害が深刻で人々の関心が高い問題なので、ぜひ全国放送してほしい。

○　ラウンドちゅうごく「獣害を転じて福となす～中国山地・雅ねえと住民たちの日々～」を見た。獣害対策の専門家である井上雅央さんの人柄や地域住民との関係がとても魅力的でほほえましく、冒頭から番組にひき込まれた。獣害の原因は人間側にあり、例えばイノシシの立場になって考えると自ずと対策方法が見えてくるという井上さん

の考え方が一貫しており、見ていて非常に納得感を覚えるすばらしい内容であった。タイトルについて、“獣害”と“転じて～”の間に「を」を入れなければ語感がよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

信頼関係の構築が取材活動の基本ではあるが、客観的な視点も大切にしながら番組制作にあたる。今後も取材を続けていく。

（ＮＨＫ側）

「禍（わざわい）を転じて福と為（な）す」という故事をもとにタイトルを考えた。タイトルを文字にしたときの読みやすさ、わかりやすさも勘案して決めた。

○　１０月２９日(金)ラウンドちゅうごく「広島まつたけラプソディ」を見た。まつたけの生産量が減少した経緯や理由について解説している中、東京大学の黒河内寛之助教やまつたけ農家の人々が提起していた「人と自然との関わりが希薄になっていることは大きな課題だ」という点をもう少し深掘りして、今後の方策を見出してもよかったのではないか。好奇心を刺激するおもしろい題材だっただけに、問題への向き合いかたが中途半端に思えてとてももったいない気がした。

（ＮＨＫ側）

広島県のまつたけの生産量がかつて全国一だったことをきっかけに番組を制作した。まつたけを巡るさまざまな話題を多角的に描いた。中国山地における人と自然の関わりは重要なテーマで、今後も取材を継続したい。

○　１０月２９日(金) さんいんスペシャル「味力発見！しまねの食スペシャル」を見た。島根県が誇る農産物や海産物を紹介していてどれも魅力的な食材ではあったが、それらを素材として紹介するだけでは他の地域の食材との差異化ができず埋没してしまう気がする。６次産業といった考え方が広まる中、例えば入手方法や調理法、販売

するお店や取り扱う飲食店など具体的な情報も伝えるなど新たな切り口で紹介すれば、島根県の食材のブランド化や購買層への訴求力の向上につながり、それが地域経済の活性化にもつながるのではないか。

（ＮＨＫ側）

今後も「しまねっとＮＥＷＳ６１０」で島根県の食について取り上げていく予定で、頂いたご意見を参考に今後の取材や番組制作に生かしていきたい。

○　１１月５日(金)＠ｏｋａｙａｍａ「あがるアート」を見た。障害のある人々が絵画やアートグッズを制作、販売して収益を上げている岡山県内のＡ型の就労継続支援事業所のアート部門の取り組みを紹介していたが、個性を存分に発揮した作品の数々や、制作に臨む積極的な姿が紹介されており、非常にすばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

９月６日(月)ハートネットＴＶ　あがるアート（６）「アートでいきいき！」を再編集し、「＠ｏｋａｙａｍａ」として岡山県向けに放送したところ、たくさんの視聴者に見てもらうことができた。

○　１１月５日(金)さんいんスペシャル「建築ワンダーランドへ　ようこそ」を見た。山陰地方の建築物の魅力を知るきっかけとなるとてもよい番組で、松江市出身の俳優・佐野史郎さんをゲストに招いたのも内容に即していた。番組冒頭、島根県の出雲大社と松江城、鳥取県の三佛寺奥院投入堂と鳥取市の仁風閣の映像をそれぞれ使用していたが、実際にはそれらの一部しか紹介しておらず、取り上げない建築物についてはコメントで紹介する程度でもよかったのではないか。またゲストがどこから現れるのかを進行役の２人のアナウンサーが探すときにそろって上の方を見ていたが、人を探すときの視線は左右を見渡すのが一般的ではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

続編の制作を検討しており、頂いた意見を制作現場とも共有し、今後

の番組制作に生かしていきたい。

○　１１月５日(金) Ｙスペ！「好と景の羅針盤」を見た。国体のセーリング競技で優勝し、東京五輪を目指すことができたほどの実力があるにも関わらず競技から離れた双子姉妹、しかしいまもヨットを楽しむ２人の思いや考え方がよく伝わってくる内容だった。瀬戸内海を疾走するヨットの映像は美しく、撮影技術の高さを感じた。ナレーションが一切入らない演出は新鮮で、その手法についてはさまざまな意見があるかもしれないが、最後まで興味を持って番組を見続けることができた。

（ＮＨＫ側）

１２月４日(土)放送予定の「ノーナレ“好と景の羅針盤”」を山口県向けに先行放送した。ナレーションがない演出について賛否両論の意見を頂いたが、取り上げた２人の表情やことばを視聴者にしっかりと伝えることができたと考えている。

○　１１月９日(火)～１２日(金)、１５日(月)～１６日(火)の「もぎたて！」を見た。９日～１５日のフィギュアスケート特集で、岡山県出身の髙橋大輔選手と小松原美里選手の２人が通った倉敷市のスケートリンクでのエピソードや、ＮＨＫ杯に向けた最終調整の様子など連日詳しく伝えており、毎日楽しく見ることができた。また１６日の放送で、ラニーニャ現象について知りたいという視聴者からの声に気象予報士がわかりやすく解説していたが、あわせてエルニーニョ現象についても伝えていれば、気象に関する視聴者の理解促進につながったのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

フィギュアスケートの特集に対して大きな反響を頂いた。岡山局の公式ツイッターアカウントでも情報を発信したところ、フォロワーの数が記録的な伸びを見せ、県内におけるフィギュアスケートの人気と注目の高さを改めて感じた。気象のコーナーについて頂いた意見を制作現場とも共有し、視聴者によりわかりやすく伝わるよう工夫を重ねたい。

○　１１月１３日(土)さんいんスペシャル「となりのアーチスト」(総合 前7:30～7:55 中国ブロック)を見た。鳥取市内の福祉施設に通う障害のある人たち一人一人の持つ卓越した才能にスポットを当てており、創作活動へ積極的に打ち込む姿が描かれていた。作品の売り上げを通じて経済的な自立をかなえることで自己有用感が高まっているためか、生き生きとした彼らの表情がとても印象的だった。この施設は今後もこのような取り組みを続けていくと伝えていたので、続編の制作を希望する。

（ＮＨＫ側）

プロとして創作活動に取り組む彼らの姿を伝えようと番組を制作した。今後も取材を続けていく。

○　１１月１６日(火)から始まった「いろ★ドリ」内の特集「鳥取×民藝」を見ている。案内役を務めるモデルで俳優の菊池亜希子さんが、その優しい語り口のインタビューを通じて民芸作家の思いをうまく引き出しており、とても興味を持った。菊池さんはこの企画にとてもふさわしいと思うが、鳥取県とも民藝ともあまり関わりはないように思える彼女をどうやって見つけ出すことができたのか知りたい。今後も県内各地をつぶさに取材して県の誇る人物や事物を取り上げ、鳥取県の魅力を広く伝えていってほしい。

（ＮＨＫ側）

東京国立近代美術館で「柳宗悦没後６０年記念展　民藝の１００年」が開かれていることから、民藝にゆかりの深い鳥取県でも紹介しようと考え特集を企画した。菊池さんは以前から民芸品への関心が高く、東京での展覧会に関連するイベントにも関わっていることから出演を依頼したところ、快諾を頂くことができた。１２月にも民藝を取り上げた番組を放送する予定だ。

○　１１月１７日(水)「お好みワイドひろしま」の特集「性暴力被害　トラウマからの回復」を見た。被害者へのインタビューは広島市の平和記念公園の近くで行われたようだが、それを見ることで性暴力の被害者が視聴者のごく身近に存在する事実がより

現実味を持って伝わったのではないかと感じた。被害者の負う傷の深さがよく理解できる内容であったうえ、傷が癒えるまでには周囲の理解やサポートが欠かせないことも伝えていたのは非常によかった。女性を性的な対象として見る価値観がいまも根強く存在すると感じており、この点について今後取り上げてみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

性暴力被害の深刻さについて知ってもらおうと特集で伝えた。取材を継続するとともに、今後もこうした問題をきちんと取り上げていく。１１月１６日（火）に放送した「ハートネットＴＶ」でも詳しく伝え、ＮＨＫプラスで見逃し配信を行うなど、多くの視聴者にこの問題を知ってほしいと考えている。

○　１１月１０日(水）ロコだけが知っている「カムカムエヴリバディＳＰ」を見た。倉敷市児島地区にある学生服の資料館の紹介や、学生服にまつわるさまざまなエピソードを詳しく伝えており、興味深く見ることができた。この番組はＮＨＫプラスでも見逃し配信されていたため、改めて見ることができてとても便利だと感じた。

（ＮＨＫ側）

今秋から始まった「ロコだけが知っている」は全国各地の地域の魅力に迫る新番組で、中国地方の各地も登場するのでぜひご覧いただきたい。

○　１１月１１日(木)クローズアップ現代＋「被爆者・坪井直さんのメッセージ▽家族が語った最後の言葉」を見た。長年にわたって坪井さんを取材してきたディレクターが自ら出演し、坪井さんから託されたメッセージや私たちが今後なすべきことについてわかりやすく伝えていた。核兵器禁止条約に参加していない日本政府のあり方についても触れていたが、いままさにその姿勢が厳しく問われているように感じる。坪井さんが被爆者の代表としてオバマ大統領と会った際に笑顔で握手したことを非難する声もあったと伝えていたが、坪井さんの生き方を知るとごく自然なふるまいであるようにも思えたし、伝えたいことを精一杯オバマ大統領に伝えることができたのではな

いかと感じた。

○　クローズアップ現代＋「被爆者・坪井直さんのメッセージ▽家族が語った最後の言葉」を見た。坪井さんがアメリカへの憎しみの感情をいかにして昇華させ、被爆者を代表してオバマ大統領と会うに至ったのかについて、人生の転機となった出来事を当時の映像とともに伝えるなど非常に説得力のある内容だった。息子の坪井健太さんのインタビューや、坪井さんを長年取材してきたディレクターが語るエピソードも非常に興味深いもので、取材力の高さを感じるよい番組だった。一方で、若い世代への被爆体験の継承のあり方について触れていたが、とってつけたような印象を受けたのはとても残念に思えた。また、原爆資料館のリニューアルに際して展示内容を見直し、犠牲者にまつわる遺品や資料を中心としたより実物に近い展示に変えたことを坪井さんも支持していたと紹介していたが、視聴者がこれについてどのように受け止めたか気になった。

この番組以外にも、坪井さんを取り上げた番組をいくつも放送していたが、こうしたタイミングに合わせて過去の優れた番組を再放送することは非常に意味があると思う。

（ＮＨＫ側）

核廃絶に向けた取り組みについて、引き続き取材していく。番組制作にあたっては、伝え方や切り口が紋切り型にならないように注意していきたい。原爆資料館の展示については、２０１９年８月６日（火）ＮＨＫスペシャル「“ヒロシマの声”がきこえますか～生まれ変わった原爆資料館～」（総合 後10:00～10:49）でも詳しく取り上げたが、頂いた意見も参考にして今後の番組制作に生かしていきたい。

○　１１月１６日（火）ＮＨＫ・ＳＤＧｓキャンペーン　未来へ１７アクション　ＮＨＫ地域局発ＳＤＧｓ推し！さんいんスペシャル「わたしたちにも学びの場を～宍道高校外国ルーツの生徒たち～」を見た。島根県立宍道高校に誕生した外国にルーツを持つ生徒だけのクラスを追った内容で、厳しい環境の中でも将来に向けて努力する生徒と、選択肢や可能性を広げてあげようと懸命に彼らを支える周囲の取り組みを丁寧に描い

ていた。宍道高校での取り組みが他の地域にも広がるよう、クラスの設置に至るまでの経緯や苦労話を紹介するような番組も期待したい。多様な価値観を尊重する社会を実現していくためにも、例えば何気ない振る舞いや言動が差別につながる可能性があることを取り上げてみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

島根県で働く日系ブラジル人を取材する中で、学校に通えなかったり居場所を失ってしまったりする子どもたちの存在や、逆に彼らを支えるための仕組みづくりに奔走する人々の存在を知り取材を行った。この問題については引き続き取材を進めていきたい。

○　連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」を日々楽しく見ている。岡山県出身の甲本雅裕さんの岡山弁による演技が特にすばらしく、ストーリー自体も興味深いものなので、今後の展開をとても期待している。

○　１０月３１日（日）「衆議院選挙速報２０２１」および「衆議院選挙２０２１特設サイト」を見た。比例代表各ブロックの議席の当選確実の情報を明け方にかけてきちんと伝え続けていたのを見て、選挙報道に全力を注ぐ姿勢に感心した。また特設サイトでは、比例代表各ブロックの候補者ごとの惜敗率の詳細を見ることができたので、開票速報を最後まで興味を持って見続けることができた。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年１０月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木)、広島拠点放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、１１月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊藤　康丈　（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
笠原　　浩　（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
古市　了一　（株式会社ふるいち　代表取締役）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　９月１７日(金)さんいんスペシャル「となりのアーチスト」（総合 後 8:15～8:40 鳥取県域）を見た。就労支援施設において精神障害や知的障害を持つ人々がプロとして創作活動に携わる姿を丁寧に取り上げており、秀逸なドキュメンタリーとして興味深く見ることができた。番組の題字を手掛けた方の作品紹介で番組を締めくくっていたが、出演した方々全員の作品を見せてもよかったのではないか。特徴のあるナレーションであったため語り口が気になったのはとても残念だった。

（ＮＨＫ側）

創作活動に真剣に取り組む姿に加えて、ふいに顔を出す微笑ましい

一面も記録することができた。ナレーションは番組に欠かせない大事な要素であり、頂いた意見を参考に今後の番組作りに生かしていきたい。

○　９月１８日(土)ラウンドちゅうごく「雪舟　～“ＡＩ”で迫る　生誕６０１年目の“真実”～」（総合　前7:30～7:55 広島・山口県域）を見た。ＡＩを駆使して、雪舟の数々の作品における謎を解き明かそうという趣旨であったが、実際の分析方法や手順についてはあまり詳しく紹介されず、若干腑に落ちない部分もあった。しかし、このように最先端の技術を用いた解析が進むにつれて、雪舟の若い頃の作品の新たな発掘につながる可能性も感じられるなど、将来に期待の持てる面白い内容だった。

（ＮＨＫ側）

全国放送に向けた展開を進めており、頂いた意見を生かした番組作りに努めたい。

○　９月２１日(火)「ひるまえ直送便」を見た。農業を通じたＳＤＧｓの取り組みなど、中国地方５県の情報をしっかり取材してわかりやすく伝えていた。夕方の各県域ニュースを通じてこの番組をＰＲするなど、各番組が有機的に連携するとさらによいと思う。引き続き地域を取材し、例えば教育や子育て、福祉といった分野で問題を掘り起こし、実情を伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

今年度から開始したＳＤＧｓのコーナーでは、アイドルグループのメンバーを起用したり丁寧な解説を付したりするなど、若い視聴者をはじめ幅広い層に見てもらえるよう工夫をしている。より多くの視聴者に関心を持っていただけるよう、地域に根差した番組作りに努めたい。

○　９月２４日(金)ラウンドちゅうごく「子どもが夢中！ズッコケ三人組　～作家・那須正幹のメッセージ～」を見た。那須さんは中国地方を拠点に活躍した著名な作家

で、ぜひ全国に向けて放送してほしい。彼の作品や彼自身を取り上げた過去の番組の再放送なども検討してみてはどうか。

○　９月２４日(金)ラウンドちゅうごく「子どもが夢中！ズッコケ三人組　～作家・那須正幹のメッセージ～」を見た。子どもも社会の構成員であるとして、児童文学でありながらも社会的なテーマに果敢に取り組んだ彼の信条がよく伝わる内容だった。著作のひとつである『絵で読む広島の原爆』について、自身の被爆体験をもとに綿密な取材に基づいて執筆をしたことが分かり、子どもだけでなく幅広い世代が読むべき作品だと強く感じた。「人間はそれほど柔ではなく、自分たちで生きる術を持っている」という彼のメッセージは、今のコロナ禍に生きる人々にも響く言葉だと強い共感を覚えた。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫプラスで見逃し配信したところ多くの視聴者のアクセスがあるなど、全国的な関心の高さがうかがえた。

○　１０月１日(金)ラウンドちゅうごく「岸田新総裁に問う」を見た。自民党新総裁に就任してから間もない時期に放送していたため､新しい情報があまり得られなかった。もう少し時間がたってから取材、制作してもよかったのではないか。

このあと衆議院選挙や広島県知事選挙といった大きな選挙が続くが、近年は投票率が低下傾向にあり、中でも若者の低投票率が叫ばれて久しい。選挙は民主主義を支える根幹だと思うので、若者をはじめ有権者に対し投票を促すような企画や番組を放送してみてはどうか。

○　１０月１日(金)　Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　私が愛するものは…」を見た。県内各地の明るい話題を取り上げており、楽しく見ることができた。中でも図書館を地域の人々の交流の場として活用しようと館長が様々なイベントを企画する取り組みは、地域活性化にもつながり素晴らしいと感じた。出演者やアナウンサーが方言を交えて視聴者へ来訪を呼びかけるシーンは、人々のつながりや地元への愛情を感じさせるよい演出だと思う。

（ＮＨＫ側）

視聴者からのお便りをもとに県内の各地域を訪ねると、面白い話題が次々と見つかり、地域色豊かなエピソードになっていく。引き続き温かい雰囲気で各地の様々な話題を伝えていく。

○　１０月８日(金)“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「おいしすぎる！里山の生きものの恵み」を見た。酪農や畜産といった面から見たヤギとヒツジの魅力がよく分かる内容で、興味深く見ることができた。ヤギの持つ草刈り能力は人々の関心が高く、入手方法や飼育方法など具体的な情報を盛り込んだ方がよいと思った。生産や飼育の現場について伝えたうえで、番組の最後に鉄板料理でその肉を食べるという流れは食物連鎖をきちんと描いており、とてもよい演出だと思った。

（ＮＨＫ側）

取材先の中には今年の８月の大雨で被害を受けた方もいらした。番組を通じて地域を元気づけていくことができればと考えている。

○　１０月８日(金)＠ｏｋａｙａｍａ「大粒で甘～い！　ピオーネ」を見た。番組を通じてより多くの人々に特産のピオーネを紹介することができたと思う。農家の人々が丹念に栽培している様子がよくわかり、よいものを作ろうとするひたむきな努力に感心した。ピオーネのさまざまな調理方法についてインターネットを活用して紹介するのはよい試みだと思った。岡山県には数多くの特産品があるので、ほかにもぜひ取り上げていただきたい。

（ＮＨＫ側）

ピオーネにかける農家の努力を伝えた。岡山県が誇る特産品について、機会を見つけて紹介していきたい。

○　１０月８日(金)Ｙスペ！うまいッ！「コリコリ！うまみ濃厚！養殖ひらめ～下松市～」を見た。１つの食材を取り上げ、飼育方法や調理方法、関連する観光情報までも

網羅する見事な構成だった。新型コロナウイルスの影響で飲食業界や観光業界が苦境に陥っているいま、飲食店やホテルを訪ねておいしい食べ方を取材しており、地域経済の活性化にもつながるよい演出方法だと感心した。

（ＮＨＫ側）

地元の食材を取り上げた番組のニーズは強く、引き続き地域の特色を生かした番組作りを行いたい。

○　１０月１２日(火)ラウンドちゅうごく「“空白の１０年”　被爆者たちの手記」（総合 後 7:30～7:55 中国地方）を見た。番組を通じて原爆医療法の制定に至るまでの多くの過程を初めて知ることができた。今回新たに発見された被爆者の手記について、当初の原稿にはアメリカへの恨みや憎しみが記されていたと知り、またアメリカ人に対する生々しい被爆者の憤りの声を、メディアを通じて直接聞いたのは初めてのように感じた。８月９日（月）ＮＨＫスペシャル「原爆初動調査　隠された真実」(総合 後 10:00～11:15)で取り上げていた残留放射線の隠蔽の事実をはじめ、今回の発見も歴史的な価値があり人々の意識を変える力を持つと思うので、全国放送だけでなく世界中に向けた発信も考えるべきではないか。今後の番組展開についてぜひ聞きたい。

○　ラウンドちゅうごく「“空白の１０年”　被爆者たちの手記」を見た。手記をテーマにしていることから、小冊子にまとめる際に削除された記述をもう少し詳しく取り上げた方がよかったのではないか。実際に手記を書いた被爆者の語る苦しみや憤りの言葉が強く印象に残ったうえ、随所で使用していた被爆当時の治療の様子を記録した映像の衝撃が大きかったため、手記の内容がかすんでしまった気がした。今回発見された手記は重要な資料であり、今後の継続取材を期待したい。

（ＮＨＫ側）

まずは全国放送を目指して引き続き取材を進めていきたい。頂いた意見を参考に、視聴者により分かりやすい構成になるよう努めていきたい。

○　ラウンドちゅうごく「“空白の１０年”　被爆者たちの手記」を見た。戦後長らく被爆について語ることが出来なかった被爆者の無念の思いや、被爆者援護施策の歴史に触れられる意義深い内容だった。「自ら声をあげなければ、立ち上がらなければ何も始まらない。被爆者たちが大切なことを教えてくれた」というコメントで番組を締めくくっていたが、番組を通じて被爆者の声なき声に寄り添っていただけに、声を上げなかったのが被爆者の責任のようにも聞こえて少し違和感を覚えた。

○　ラウンドちゅうごく「“空白の１０年”　被爆者たちの手記」を見た。番組の前半で手記を取り上げ、後半で被爆者援護施策の歴史を取り上げていたが、それぞれの内容にあまり関係性がなく中途半端な印象を受けた。小冊子から削除された被爆者の生々しい声をさらに掘り下げていけば、より興味深く見ることができたと思う。また被爆者援護施策についても、番組の時間が足りなかったためか一般に知られている事実を伝えるだけにとどまっていたのは残念に感じた。タイトルにある「空白」という言葉が指す内容が、援護施策がなかった時期を指すのか、政治的な配慮のために被爆の事実を語ることができなかった時期を指すのかがよくわからず、もう少し丁寧に説明するべきだと感じた。番組末尾の締めくくりコメントは正鵠（せいこく）を射ており、被爆者は自ら声を上げ団結することで援護施策を勝ち得てきたと言える。一方で全国の空襲被害者はいまも救済されていない現実もあり、多様な側面からこういった問題を描いてみてはどうか。今回発見された新事実は重要なテーマになりうるので、今後も取材を行い続編の制作を希望する。

（ＮＨＫ側）

取材を通じて得た情報をできる限り伝えたいという気持ちもあったかもしれない。取材は今後も継続して行い、頂いた意見を参考にして番組制作に臨みたい。

○　１０月１３日(水)「お好みワイドひろしま」を見た。広島県出身の画家・四國五郎の回顧展と彼の遺した平和へのメッセージについて特集した企画を見た。彼の制作活動の原点となった凄惨な戦争体験や、作品を通じて平和の尊さと反戦反核のメッセージを訴え続けた彼の信念が伝わってくるすばらしい内容だった。

○　１０月１４日(木)「もぎたて！」を見た。番組冒頭で気象予報士が天気の話題に触れており、視聴者が気象情報に関心を持つきっかけになってよいと思う。またその日に伝えるニュースの項目を画像付きの一覧で示す演出もわかりやすい。「もぎリサーチ」のコーナーで、視聴者からの疑問や質問に対し丁寧に取材して答えようとする姿勢はすばらしく、今後も楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

夏以降に不安定な天気が続いたこともあり、番組冒頭で天気に触れる構成にしている。引き続き生活に根差した気象情報を伝えていく。ニュースの一覧は岡山局のツイッターでも発信しているのでぜひ活用してほしい。

○　１０月１４日(木)「しまねっとＮＥＷＳ６１０」を見た。県内で進められてきたＡＩによる認知症予測の研究に関する特集を見たが、最先端の研究が身近なところで行われていると知り嬉しく思った。実用化に至るまでの過程や解析の仕組みをわかりやすく解説しており興味深く見ることができた。「島根ＮＥＷＳ ＷＥＢ」のサイトにも記事と動画が掲載されていたが、このニュースを全国の視聴者に届けてほしいと感じた。また９月２８日（火）に放送された特別養子縁組の特集も丁寧に取材されており、制度の実情がよくわかる内容であった。このように、見聞きしたことはあるが実際はよく知らないことについて、今後も取材して伝えてもらえるとありがたい。

（ＮＨＫ側）

ＡＩによる認知症予測の研究は４年前から取材を続けてきた。最先端の技術であり、事実関係を積み上げていくなど綿密な取材を心がけた。今後も取材を行っていくつもりで、展開方法についても検討していきたい。

○　１０月から土日の夕方に放送している「ニュースやまぐち６４５」（総合 土日（１０月のみ） 後 6:45～6:59　山口県域）を見ている。広島局から中国地方向けに放送

している従来のものに比べ、山口県内各地の週末のニュースや話題を事細かに知ることができとても嬉しい。天気予報も山口県向けの詳しい情報が得られるのでありがたく、今後もこの編成が続くことを希望する。

（ＮＨＫ側）

山口県内には特色のある地域がいくつもあり、各地を丁寧に取り上げることができる県域放送は重要だと考えている。頂いた意見を今後の編成に生かしていきたい。

○　１０月１４日(木)「あさイチ」の「みんなでシェア旅　神ってる！島根の魅力が大集合」のコーナーを見た。邑南町の空き家問題への取り組みを紹介していたが、他地域における対策との違いが分かりづらく、独自性が感じられる部分を伝えてほしかった。石州瓦のアクセサリーを紹介し、東京にある島根県のアンテナショップでも購入できることを伝えていたが、さらにお店の場所や連絡先を紹介してもよかったのではないか。スタジオにいるゲストの後ろに設置されたモニターに、島根県の美しい風景写真がいくつも映し出されていたのに、その説明がなかったこともとても残念だった。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を今後の番組制作に生かしていきたい。

○　１０月１８日(月)逆転人生「ニッチ市場で急成長！小柄服ブランド」を見た。Ｄ２Ｃブランドの立ち上げから成功までの紆余曲折を取り上げた内容で、興味を持って見ることができた。経済を扱う番組が少ないと感じており、例えば中国地方にあるＤ２Ｃに取り組む企業の動きなどを取材し、番組化してみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

昨年来、新型コロナウイルスの影響を受けた中国地方の地域経済について取り上げた番組などを放送してきた。新規感染者の減少傾向が見られるなど少し状況が変わってきたこともあり、地域経済を取り上げた番組ができないか検討してみたい。

○　１０月８日（金）さんいんスペシャル「極める！挑む！とっとりの技」を見た。３人の職人を取り上げていて、三者三様の技術や心の動きが細部にわたって描き出されており興味深く見ることができた。アナウンサーがそれぞれの職人から丁寧に言葉を引き出していく様子は見事だった。児童や生徒へのキャリア教育の教材にもなりうる素晴らしい内容で、この企画を今後もぜひ続けてほしい。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年９月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木)、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２１年度後半期の国内放送番組の編成」について説明があったあと、「２０２２年度の番組改定」も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、１０月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊藤　康丈　（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
笠原　　浩　（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
古市　了一　（株式会社ふるいち　代表取締役）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜「２０２１年度後半期の国内放送番組の編成」および
「２０２２年度の番組改定」について＞

○　総合テレビの新たな広報番組「＃ＮＨＫ」についての説明の中で「ＮＨＫ　ｆｏｒ　Ｓｃｈｏｏｌ」について触れていたが、どのようなものかもう少し内容を詳しく知りたい。

○　「＃ＮＨＫ」についての説明の中で「ＮＨＫ　ｆｏｒ　Ｓｃｈｏｏｌ」について触れていたが、このホームページや掲載されているコンテンツに非常に魅力を感じているの

で、視聴者に積極的に紹介してほしい。

（ＮＨＫ側）

Ｅテレやラジオ第２を中心に放送する学校教育番組や、学習内容を簡潔にまとめた動画をホームページで配信しているサービスを総称して「ＮＨＫ ｆｏｒ Ｓｃｈｏｏｌ」として提供している。「ＮＨＫ ｆｏｒ Ｓｃｈｏｏｌ」を視聴者に知っていただくことが重要だと認識しており、例えば「＃ＮＨＫ」で積極的に取り上げるなど広く周知を進めていきたい。

○　ＢＳ４ＫやＢＳ８Ｋを今後どのように展開していくのか。

（ＮＨＫ側）

ＢＳ４ＫおよびＢＳ８ＫはＮＨＫにとって重要なチャンネルだと考えている。それぞれの特性に合った魅力的なコンテンツを編成していきたい。

○　新型コロナウイルスの影響により、連続テレビ小説の放送開始が従来の４月と１０月ではなくなり、他の番組の改定時期とずれているため少し違和感を覚える。次回作「カムカムエブリバディ」の放送開始日も１１月１日とのことだが、以前のような放送期間に戻すことを検討してみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

いただいた意見は、多くの視聴者の気持ちと共通するものだと受け止めており、制作現場とも共有しながら今後の編成に生かしていく。

○　東京オリンピック・パラリンピックがＮＨＫを中心に民放各局でも連日放送されていたが、これは事前に民放各社と調整をして中継する競技や放送日時を決めているのか。またオリンピックなどの大きなスポーツイベントの放映権料が高騰し続けると聞くが、ＮＨＫは今後も放映権を買い続けることにしているのか。

（ＮＨＫ側）

大きなスポーツイベントを前にＮＨＫと日本民間放送連盟加盟各社とでジャパンコンソーシアムを結成して放映権を取得、その後ＮＨＫをはじめ民放各社と競技中継の内容や日時を調整して決めている。受信料で成り立っているＮＨＫにとって放映権を適正価格で得ることが重要であり、コスト増につながらないよう関係各所と連携しながら交渉を進めていく。

＜放送番組一般について＞

○　７月１６日(金)しまねっとＮＥＷＳ６１０(総合 後6:30～6:59 島根県域)を見た。「隠岐だより」のコーナーで、知夫村で牛を飼っている若い女性を紹介していたが、島での暮らしぶりがよくわかる内容だった。同じ県内に暮らしていても隠岐諸島の話題に触れることが少ないので、このような企画を今後も定期的に続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

隠岐諸島に民間通報員を配置して普段から取材活動を行っている。引き続き隠岐諸島の話題を伝えていく。

○　７月１６日(金) さんいんスペシャル「どう立ち直る？コロナ禍の山陰経済」を見た。島根県内で有数のグループ企業の経営トップ自らがインタビューに応じ、経営環境の厳しさを詳細な数字とともに答えているのを見て驚いたと同時に、今後の動向に興味がわいたので継続取材を希望したい。番組ではさらにいくつかの地元企業を取り上げ、新型コロナウイルスの収束後を見据えてリノベーションに取り組んでいる様子などを伝えていたが、番組で取り上げた企業は自治体や国からの補助金を得て事業を行っているようで、他の企業にも取材を行うべきだったのではないか。

○　さんいんスペシャル「どう立ち直る？コロナ禍の山陰経済」を見た。島根県内で有数のグループ企業の経営状況についてこれほど詳細に取り上げているものを見たこと

がなく非常に見応えがあったものの、真新しさはあまり感じられなかった。厳しい現状を伝えるだけでなく、危機を乗り切るための具体策や取り組みを紹介してもよかったのではないか。ゲストで日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員の、山陰地方は世界的にみても新型コロナ新規感染者数が非常に少なく、安心・安全な場所であるため、人をひきつける魅力になるのではないか、といった指摘は初めて聞く意見で今後の可能性を感じることができた。

（ＮＨＫ側）

　このグループ企業に長期にわたる密着取材を申し入れたところ、受け入れてもらうことができた。今後も機を見て放送することにしていく。今回の番組では、コロナ禍の中でも非常に前向きに取り組んでいる山陰両県の企業を取り上げた。引き続き山陰経済の動向を取材していく。

（ＮＨＫ側）

　今後もさまざまなケースを取り上げ、山陰地方について松江局と一緒に考えていきたい。

○　７月１６日(金) Ｙスペ！「今を、支えたい。～コロナ禍のひきこもり　求められる支援～」を見た。世話をする親が高齢で子どもも中高年という“８０５０問題”を取り上げていたが、ひきこもりに悩む家庭に寄り添い支援を続けるＮＰＯの人々の温かい思いがよく伝わってきた。このような番組がきっかけとなって問題への理解が進み、社会がよい方向に変わっていけばと感じた。

○　８月１０日（火）れいわのへいわソング（総合 後 10:00～10:45 中国ブロック）を見た。歌を通じて広島から平和の尊さを伝えていくという趣旨の番組だったが、出演者のパフォーマンスやコメントからは被爆体験の継承や平和への思いはあまり感じられなかった。観客のほとんどが女性だったので、男性も関心を持つようなゲストの選定を考えるべきではなかったか。番組の構成はありきたりなもので真新しさはなく、番組タイトルにある「れいわ」という新時代を感じさせない演出だったので見ていて

残念だった。

（ＮＨＫ側）

いただいた意見を参考に、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　９月４日（土）瀬戸内宝石箱「乳白色の恵み　～広島県・倉橋島～」（総合 前7:55～8:00 中国ブロック）を見た。空撮や水中撮影の映像がすばらしく、牡蠣をクローズアップで紹介する場面では、画面を通じておいしさが五感に強く訴えかけるように描き出されており、ＮＨＫの確かな技術力を感じた。この番組をはじめ４Ｋや８Ｋで制作された番組は自然を描写する内容が多くを占めているように思うが、自然以外の他のジャンルへは今後どのように展開していくのか。

（ＮＨＫ側）

瀬戸内の魅力を伝えるため、２０１７年度に広島局と松山局が一緒に４Ｋで撮影して制作した。自然の魅力を伝えたり、芸術作品を詳細に記録したりする際に、４Ｋや８Ｋの技術は非常に有用だと感じており、他のジャンルへの展開についても今後検討していきたい。

○　９月１０日（金）“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「アイデアさく裂！ピンチをチャンスに変える発明家たち」を見た。“鉄の町”として知られる福山市でユニークな取り組みを行う企業や人々を取り上げ、いずれも鉄を生かしつつ地元企業や地域社会のために役立ちたいという気持ちが感じられてとても心に響いた。アナウンサーもニュースを読むときとは違ってリラックスした雰囲気で番組を進行しており、楽しく見ることができた。

（ＮＨＫ側）

地域を盛り上げて活性化しようと取り組む企業や、地域の課題を解決しようと奔走する人々を取り上げた。いただいた意見を生かして、今後の番組制作の充実に努めていきたい。

○　９月１０日(金)さんいんスペシャル「移住者を支える“島のほけんしつ”」を見た。隠岐諸島・海士町の“島のほけんしつ”で、オーナーが移住者の気持ちや暮らしに真摯に寄り添っている様子がとても心に響いた。近年、私の暮らす地域でも移住者が増えつつあり、地元に長く暮らす者として移住者に何ができるかを考えていたところだったので、とても参考になる番組だった。

○　さんいんスペシャル「移住者を支える“島のほけんしつ”」を見た。ナレーションが番組の雰囲気とあっていてとても聞きやすかった。悩みや葛藤を抱えながらも“島のほけんしつ”を開業したときのエピソードをオーナーが語る場面は引き込まれて見ていたが、新規移住者の相談に乗る場面が続くなど単調な映像が続いたためか途中で飽きてしまった。最近は動画をよく見ているせいか２５分間が長く感じられ、例えば１５分にまとめるとより見やすくなるのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

地域に貢献しようと取り組む姿を密着取材したので、場面の切り替えが少なかったかもしれない。いただいた意見を参考に、編集や演出面で工夫していきたい。

○　９月１０日(金)Ｙスペ！「ハチマキＴＶスペシャル」を見た。５月の放送で取り上げた人々のその後を追加取材して紹介するという構成であったが、それぞれの登場人物の様子に変化がほとんど見られず、拍子抜けした。スタジオではなく倉庫のような建物で収録したことや、マスクを着けたまま番組を進行していたこともあり、テレビ番組とは思えないような貧相な印象を受けた。スーパーの字が読みづらいなど改善すべき点がいくつもあるように感じられ、今後もこの企画を継続するのであれば、どうすれば楽しく見てもらえるか、工夫を凝らしていくことが必要だと感じた。

○　Ｙスペ！「ハチマキＴＶスペシャル」を見た。取材に駆け回っていたリポーターらは活気があり、楽しく見ることができた。５月の放送で取り上げた方々のその後を取材していたが、わずか数か月しか経過していないので特に変化が見られず残念な内容だった。倉庫のような場所で番組を進めていたが、若者が好むような魅力的な場所で

はなく、雑多な雰囲気の場所であったのも残念であった。

（ＮＨＫ側）

今後の制作に際しては、いただいた意見を参考に番組作りに生かしていきたい。

○　東京オリンピック・パラリンピックの期間中、平日でも「情報維新！やまぐち」を放送しない日があったり、放送があっても日によって放送時間が違ったりするなど、とても見づらく感じた。山口県にゆかりのある選手がメダルを獲得すると、民放各社は夕方の地域ニュースで早速取り上げていたが、ＮＨＫでは東京オリンピック・パラリンピックが終わってから大会のハイライトを放送するといった対応だったので、時機を逸した印象が否めなかった。地域情報を伝える時間をきちんと確保するなど、地域放送の充実を期待したい。

（ＮＨＫ側）

東京オリンピック・パラリンピック期間中は、競技中継に多くの時間と人手を割いたこともあり、地域放送を伝える時間が短くなってしまった。地域情報の充実に向けて何ができるか、具体的な方策を考えていきたい。

○　６月２０日（日）ＮＨＫスペシャル　パンデミック　激動の世界（１１）「検証“医療先進国”（前編）なぜ保健所は追い込まれたか」、２７日（日）（１２）「検証“医療先進国”（後編）なぜ危機は繰り返されるのか」（総合 後 9:00～9:59）を見た。多くの民間病院が新型コロナウイルス患者を受け入れていない事実を明らかにし、このことが医療をひっ迫する原因の一つだと指摘していた。医療機関に余裕をもたらして緊急事態宣言の発出を抑える方向に進めていかないと、経済状況がますます悪化の一途をたどるのではないか。地方の経済は本当に危機的な状況にあり、中国地方でも同様の現象が起きていないか、取材を進めて状況を明らかにしてみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

コロナ禍における経済への大きな影響は深刻な問題だと受け止めており、今後も取材を行っていきたい。

○　８月９日（月）ＮＨＫスペシャル「原爆初動調査　隠された真実」（総合 後 10:00～11:15）を見た。残留放射線による人体への影響が政治的な思惑により隠蔽されていく過程がよくわかる内容であった。被爆者がまるで実験動物のように扱われてきた歴史や、アメリカの公式見解ではいまも残留放射線の影響はないとしていることを知り戦慄を覚えた。残留放射線の影響や“グローバル・ヒバクシャ”の存在はいまや地球規模で問題になっており、番組の終盤を被爆地からの訴えという形でまとめていたのは残留放射線に関する問題を自らわい小化しているようで残念に感じた。

○　ＮＨＫスペシャル「原爆初動調査　隠された真実」を見た。国内外のさまざまなキーパーソンに幅広く取材し、東京電力福島第一原子力発電所の事故をはじめ現在起きている課題にもつながる視点を盛り込んでいて非常に見ごたえのある番組だった。科学的な事実が政治によって歪曲されていく過程を詳細に描き出していた一方で、データや記録を詳細に取っておくことで、問題を取り巻く環境が変化すれば真実を明らかにできるという希望を感じることができた番組であった。政治と科学の関係については、８月７日（土）ＥＴＶ特集「日本の原爆開発～未公開書簡が明かす仁科芳雄の軌跡～」でも取り上げており、科学技術の軍事転用の在り方を巡って難しい立場に置かれている現代の科学者にもつながる内容だと感じた。

（ＮＨＫ側）

残留放射線の影響が政治的な思惑から隠蔽されてしまった過程や、政治と科学の関係の在り方などを綿密な取材をもとに描き出すことができた。

○　８月３１日(火)中国地方推し！ラウンドちゅうごく「ひろしま魅惑の家物語」（ＢＳ１ 前 0:35～1:00）を見た。広島県内の特徴的な家々を、歴史的、文化的な背景や客観的なデータなどを交えてわかりやすく伝えており、楽しく見ることができた。ナレーターに広島県出身の元モーニング娘。の鞘師里保さんを起用していたのが好印象

で、番組が明るい雰囲気で進行していたのもよかった。

○　９月６日(月) ハートネットＴＶ　あがるアート(６)「アートでいきいき！」を見た。岡山県内のあるＡ型の就労継続支援事業所のアート部門に従事している方々が生き生きと働く姿を見て強い共感を覚えた。廃材を利用してアート作品を制作、販売するとともに､作品の作り方を全国に広める取り組みを行う姿勢はすばらしいと感じた。作品のよさをうまく引き立てる映像は美しく、ＢＧＭも場面にあっており非常に見応えのある番組だった｡この事業所のサービス部門の取り組みも目を見張るものがあり、次はＳＤＧｓの観点から取り上げてみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

岡山県内のＡ型作業所は先進的な取り組みを行っているところが多く、それらを「もぎたて！」で随時紹介している。この作業所についても紹介方法を検討したい。

○　ＮＨＫプラスの見逃し配信を通じて、中国地方各局の地域色豊かな番組を見ている。広島県に住んでいると従来は見られなかった他県向けの番組を見ることができるのはとても有用で、今後も良質な番組づくりとラインナップの充実を期待している。

○　８月２０日(金)さんいんスペシャル「がんばれ聖奈　～鳥取初の金メダリスト～」を見た。鳥取県出身選手として五輪で初の金メダルを獲得した東京オリンピック・女子ボクシングの入江聖奈選手を、幼い頃からの貴重な映像の数々とともに紹介しており、ＮＨＫの取材力の高さに感心した。小学生時代から指導してきた伊田武志さんの「最初は普通の女の子だったが、一つの事を諦めずにずっとやり続けてきたからよい結果を出すことができた」という言葉は、多くの子どもたちに夢と希望を与えたのではないか。常に感謝の気持ちを忘れない入江選手の人柄や、故郷・鳥取県への郷土愛が感じられる大変よい番組だった。

○　７月１７日(土)＠ｏｋａｙａｍａ「一度は助かった命がなぜ ～西日本豪雨 災害関連死～」（総合 前 11:24～11:49 岡山県域）を見た。あまり取り上げられてこなかっ

た「災害関連死」についての理解が深まり、同じ悲劇を生まないために何が必要かを考えるきっかけとなった。西日本豪雨では本当にさまざまな要因で多くの人が亡くなっている事実に驚くとともに、被害に遭われた方々への支援を続けることが重要だと感じた。災害の記憶を忘れないためにも、また被災者のことを継続して考えるためにもぜひ継続的に取材してほしい。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年７月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木)、広島拠点放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、８月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　６月１８日(金)ラウンドちゅうごく「中国地方横断！“分水嶺”ジャーニー」を見た。中国地方の地形の成り立ちについて、アンガールズの山根良顕さんや徳永圭一アナウンサーによる丁寧な説明を伴った進行に加え、専門家による手作りの模型を使った解説も分かりやすく、誰もが理解できるように工夫されており好印象だった。分水嶺が文化の分かれ目にもなっていたという観点も興味深かった。ただし中国山地のある峠から散水車を使って水を流す実験を行い、峠を境に水が左右に分かれて流れているからその場所が分水嶺だという説明については、もう少し詳しい解説があってもよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

指摘のあった部分について、制作現場に伝え、より分かりやすく伝えられる手段はないか今後工夫していきたい。

○　７月２日(金) ラウンドちゅうごく「コロナで急増！依存症危機　どう向き合う　ゲーム・賭け・酒」を見た。対面での授業や面談がままならない中、精神的な不安定さを訴える学生が増えているということで、参考になるのではないかと期待したが、依存症に悩む人に向けたオンラインによる集団カウンセリングの取り組みを紹介する一方で、ある断酒会が短時間でも直接顔を合わせて集まることで効果を上げているという事例を紹介するなど、結局どう対処していけばよいのかが分からなかった。番組で多数の事例を紹介していたものの、依存症の増加と新型コロナウイルスの感染拡大に関連性があるという明確な根拠が示されていなかったこともあり、見ていてもどかしさを感じた。

（ＮＨＫ側）

孤立を防ぐことを主眼において、悩みを抱える方が少しでも参加を考える糸口になるよう、オンラインと密を避けた対面の両方の取り組み事例を紹介した。相談窓口を設けている機関によれば、コロナ禍により明らかに相談件数は増加しているということだった。行政機関などによるデータはまだ存在していないものの、コロナ禍における重要な問題だと受け止めている。

○　７月２日(金)さんいんスペシャル「わたしたちにも学びの場を～宍道高校　外国ルーツの生徒たち～」を見た。今春誕生した外国ルーツの生徒だけで構成されたクラスを密着取材しており、教師と生徒が問題解決に奮闘する様子がひしひしと伝わってきた。日本語に苦労しながらも前向きで志の高い生徒たちが登場したが、外国にルーツを持つ子どもにとって高校進学そのものが難しい状況にあると聞くので、厳しい環境におかれた子どもにも焦点を当ててみてはどうか。教育現場は日々新たな問題に直面しており課題は山積していると思うので、ぜひ今後も取材を続けて問題を掘り下げて

いってほしい。

（ＮＨＫ側）

高校生になると日本語理解のための授業がなくなり、学校についていけなくなる外国ルーツの生徒が数多くいることを念頭に取材を始めた。難しい状況で過ごす子どもをはじめ教育現場への取材は今後も続けていきたい。

○　７月２日(金)さんいんスペシャル「Ｓａｙ　Ｙｅｅｅａｈ！～鳥取の“精鋭”たち～」を見た。教育現場では「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育の一環として地域で活躍するさまざまな職業の人々の話を聞く機会を設けているが、コロナ禍により学校に招くことが難しい。代わりにこの番組を見ることで児童や生徒に伝わるものがあるのではと感じたので、鳥取県で頑張っている人々を今後も発掘し続けてほしい。スキューバダイビングの名所としても知られる浦富海岸を紹介していたが、付近で見られる魚を写真で数点紹介していただけで海や海中の映像がなかったのがとても残念だった。

○　さんいんスペシャル「Ｓａｙ　Ｙｅｅｅａｈ！～鳥取の“精鋭”たち～」を見た。紹介された３人の活躍は見応えがありよくできていた。一方、「精鋭」という言葉と英語の「Ｓａｙ　Ｙｅｅｅａｈ！」をダジャレ風にかけて用いたようだが、後者は訳せば「はいと言いなさい」という意味であって２つの言葉は何ら意味上のつながりを持たず、もう少し日本語を大切に扱ってほしいと感じた。また出演者が鳥取県は人口こそ少ないものの少数精鋭だと伝えたあとに「Ｓａｙ　Ｙｅｅｅａｈ！」と言っていたが、人口最少県だと卑下するような文脈を押し付けられたうえ「はいと言いなさい」と聞かされるのは不快で失礼にも感じた。全国に誇れるほどの魅力的な自然が番組にいくつも出てきていたのに、それらのすばらしさをきちんと紹介出来ていなかったのも残念だった。鳥取局が番組制作に真摯（しんし）に向き合い、番組の質を高めていくことを願う。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を真摯（しんし）に受け止め、今後の番組制作に向けて生かしていく。

○　７月２日(金)Ｙスペ！「魅力を体感！山口の山　Ｓｅａｓｏｎ４　自然満喫編」を見た。登山の実用的な情報だけでなく、キャンプをはじめとするアウトドアに関する情報も紹介しており、さまざまな視聴者を取り込める内容になっていた。出演者がワイプ画面を通じて番組を進行していたため、画面全体に映る美しい山の風景を堪能することができた。撮影日は霧のため竜王山からの絶景があまり見えなかったのが残念で、晴れた日に改めて撮影してもよかったのではないか。暗い話題が続くコロナ禍において、ほっと息抜きができるような番組だった。

○　７月２日(金)Ｙスペ！「魅力を体感！山口の山　Ｓｅａｓｏｎ４　自然満喫編」を見た。ドローンで撮影した絶景に加え、登山を楽しむ人に役立つ情報が満載で、これまでのシリーズの中で最も出来がよかったのではないか。左右のワイプ画面に映る島田莉生アナウンサーと横山真里奈キャスターの進行はとても爽やかで、登山時の新型コロナウイルス感染防止のポイントが具体的に紹介されていたのもよかった。「Ｙスペ！」は自然や動物などを多く取り上げているが、県民の関心が高い地元の政治や経済を深掘りする番組やドキュメンタリーなども期待したい。

（ＮＨＫ側）

自治体の行財政や地元経済の動向など県民の関心が高いテーマをはじめ、地域に暮らす人々を広く取り上げるなど、地域情報を掘り下げて伝えていきたい。

○　７月３日(土)さんいんスペシャル「地方で暮らすＬＧＢＴｓのわたし」（総合 前10:55～11:20 中国ブロック）を見た。島根県の小さな集落に移住した性的マイノリティーの女性に密着していたが、従来の男女観を持つ地元の人々との感覚のずれが至るところに見出され深く考えさせられた。主人公の「結婚しない」という告白を聞いて集落の人々が戸惑いを隠さないものの、彼女の生き方を認めて向き合っている様子には希望を感じることができた。生きづらさを感じる人々はこの番組を通じて何かしら

共感を覚えたのではないか。多くの人に知ってもらいたいテーマであり、これからもさまざまな立場や価値観を持つ人を取り上げた番組をぜひ制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

今後も取材を続けていく予定だ。特設サイト「私たちはここにいる」を開設して、ＬＧＢＴｓの人々の声を紹介しているほか、「ＮＨＫ　ＮＥＷＳ　ＷＥＢ」でも番組内容をまとめた記事を掲載している。

○　７月６日(火)・７日(水)の「もぎたて！」を見た。６日は岡山県倉敷市真備町と総社市で行われた追悼式を、７日は被災後の避難生活や復興作業の過程で発生した災害関連死に関するリポートを伝えていた。西日本豪雨から３年となる節目に改めてこの災害に向き合うとともに、当時はわかりづらかった災害関連死について考えるよい機会となった。７日に山陰地方で線状降水帯が発生して以降、中国地方で連日のように大雨関連のニュースが伝えられていたが、ニュース本編で気象警報や避難情報などが次々とスーパーで表示されていたのに加えて、Ｌ字画面でも交通情報や避難所の案内といった情報が流れてきたため、どの情報が重要なのかわかりづらかった。同じ画面に複数の文字情報が動いていると、放送内容に集中しづらくなり困ることがある。例えばＬ字の縦の部分には気象警報などの重要な情報を一定時間表示して文字の動きを減らすなどして、視聴者が画面に集中しやすいように工夫してみてはどうか。

○　「もぎたて！」では、発災から３年となる西日本豪雨を取り上げた一連の企画を見た。防災企画や復興に関するリポートはとても意義のある取り組みだと感じた。毎年のように豪雨が続くなど非常に気がかりなところでもあり、今後も防災や減災につながる放送を期待している。

（ＮＨＫ側）

豪雨などにより被害の発生が予想されるときは、刻々と更新される情報を迅速に伝えるため一つの画面に複数の情報を同時に出しているが、伝わりにくい面もあるという指摘は今後の参考にしていく。災害関連死に関するリポートは、６日の「ニュースウオッチ９」でも伝えた。

熱海市で土石流が大きな被害をもたらした直後でもあり、全国発信した意味があったと思う。これからも防災、減災につながる放送を行っていく。

○　７月９日(金)ラウンドちゅうごく「激甚化する水害　命を守るために～西日本豪雨３年の課題～」(総合 後7:30～8:42 中国ブロック)を見た。３年前の西日本豪雨を経験した地域の放送局として、災害から命を守るための責務を果たそうという気概が感じられた。番組冒頭で取り上げる３つのテーマが示されたことで、番組がとても見やすくなった。避難が遅れたため土石流で家と家族を失い、自身も片足を失った男性の体験談は特に重く心に響いた。倉敷市真備町に新たに移り住む人が増える一方で彼らの水害への意識が希薄だと危惧する報道も目にしており、注意喚起と記憶の継承がますます重要で、メディアにその役割が求められていると思う。防災や減災を主眼に置き、災害からいかに命を守るかという課題を掘り下げていく番組を今後も期待したい。

○　ラウンドちゅうごく「激甚化する水害　命を守るために～西日本豪雨３年の課題～」を見た。被災した男性の家と家族を失った話を聞いて当時を思い起こしてしまい涙が出た。また、当時小学５年生だった少女が近所の人々によって命が救われたという話を聞き、地域社会でお互いを支えあう大切さを感じた。ゲストの片田敏孝東京大学大学院特任教授は、専門的な知識に裏付けられた話をわかりやすく伝えていたので多くの人の心に届いたのではないか。一方で、深刻な内容を伝えるリポートが終わりスタジオに戻ったときアナウンサーがほほ笑んでいたように見えて少し違和感を覚えた。また、番組終盤の片田特任教授による締めのコメントがＢＧＭにかき消されて聞きづらかったのも残念だった。この番組は総合テレビとＢＳ１での全国放送を予定しているそうだが、中国地方に住む私たちが災害から学んだ教訓を全国発信できるのは大変よいことだと思う。

（ＮＨＫ側）

被災した男性は、他の人には同じ思いをしてほしくないと発災から３年たって初めて取材に応じてくれた。指摘いただいた点は今後の番組作りに生かしていく。

○　ラウンドちゅうごく「激甚化する水害　命を守るために～西日本豪雨３年の課題～」を見た。知り合いの住む地域では大雨に見舞われると頻繁に避難指示が出されるものの住民の反応が総じて鈍く、結局何も行動しないまま過ぎていくのが常態化していると聞く。こういった防災や減災への意識がさほど高くない地域についても取材し、避難行動をとらない理由や、防災意識を高めていく方策を探ってみてはどうか。

○　ラウンドちゅうごく「激甚化する水害　命を守るために～西日本豪雨３年の課題～」を見た。先日、線状降水帯による豪雨が自分の住む地域を襲い、経験したことのない事態に恐怖を感じたものの、その後雨が小康状態になったため避難せずに過ごした。“避難スイッチ”を押すことの難しさを改めて考えさせられた。番組ではＳＮＳを通じて友人の家族が避難したことを知った少年がそのことを両親に伝えて実際の避難行動につなげていたが、避難をするかどうかを決めるのは個人の危機感次第だというのが現状だ。ご近所同士で避難の呼びかけを行うなど、地域社会による防災や減災への仕組みづくりが求められている時期に来ていると、番組を見て強く感じた。

（ＮＨＫ側）

放送に加えてインターネットなどのデジタルツールも活用して、緊急時には視聴者が“避難スイッチ”を押せるような情報発信を目指していく。

○　６月２７日(日)ＮＨＫスペシャル　パンデミック　激動の世界（１２）「検証“医療先進国”（後編）なぜ危機は繰り返されるのか」を見た。医療体制が充実しているとされる日本で、新型コロナウイルス感染症による病床のひっ迫や医療提供体制の危機がたびたび発生する理由を探るため、医師会や民間病院などこれまであまり取材に応じてこなかった印象のある機関に対して積極的に取材を行い、問題に切り込んでいた姿勢はすばらしいと感じた。

○　７月２日(金)アナザーストーリーズ　運命の分岐点「“ダンシング・クイーン”が起こした奇跡　～ＡＢＢＡと王妃の知られざる物語～」(総合 後 10:00～10:45)を見

た。有名な曲だが、スウェーデン王妃にささげられた曲だったことをはじめ、性的マイノリティーへの応援歌になっていったこと、それらがシドニーオリンピック閉会式でのカイリー・ミノーグの熱唱に関係していたと知り、初めて聞く話ばかりで非常に興味深く見ることができた。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年６月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１７日（木）、広島拠点放送局（ウェブ開催）において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、７月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊藤　康丈　（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
笠原　　浩　（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
鷲見　寛幸　（大山町教育委員会　教育長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　５月２１日(金)ラウンドちゅうごく「コロナ変異ウイルスの脅威　広島・岡山からの報告」を見た。広島県における新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関の確保病床数が約７００床にとどまり、全国平均に比べて少ないことを指摘してもよかったのではないか。

○　ラウンドちゅうごく「コロナ変異ウイルスの脅威　広島・岡山からの報告」を見た。“第２波”、“第３波”と波を重ねるごとに新規感染者数が増え事態も長期化している中、現場で働く医師の「変異ウイルスはこれまでのものとは違う」という言葉や、

回復した元重症患者の「なめたらあかん」という言葉が非常に印象的だった。社会が集団免疫を獲得するまでは気が抜けないということを改めて思い知らされた。

○　５月２２日(土)ラウンドちゅうごく「スポーツで脳が変わる　～発達障害・療育の最前線～」(総合 前7:30～7:55 中国ブロック)を見た。１５人に１人の割合で発達障害を抱えている可能性があると知りとても身近な問題だと感じたので、ぜひ全国に向けて放送し多くの視聴者に見てもらいたい。発達障害を抱える児童を支援するスポーツクラブなどを取り上げていたが、こういった団体が安心して事業を継続できるような支援のあり方を議論するなど、もう少し取材を掘り下げてほしかった。

○　ラウンドちゅうごく「スポーツで脳が変わる　～発達障害・療育の最前線～」を見た。サッカーや柔道を通じて発達障害の子どもと向き合う取り組みが取り上げられていたほか、運動と脳の発達に関する大学による研究結果も紹介されており説得力があった。発達障害の子どもたち一人一人の特性に応じたオーダーメイドの支援が必要、との指摘が印象的だった。広島県での指導者育成に関する事例が紹介されており、この分野に取り組む人々にとって希望が持てるよい内容だった。

（ＮＨＫ側）

土曜日の朝の放送だったが多くの方に見ていただき、このテーマへの関心の高さがうかがわれた。今後は支援事業の持続可能性という点からも取材を進めたい。

○　５月２２日(土)√るーと５ｍｉｎ．「春のお悩み解決旅　その６」(総合 後 12:40～12:45　鳥取県域)を見た。新型コロナウイルス感染拡大の影響で厳しい状況にある繁華街を元気にしたいという趣旨の企画だったが、出演者の言動がふざけているように見えて不快に感じた。折しも全国で多くの新型コロナウイルスの新規感染者が確認され、死者も出ている状況で、このような番組を放送するのは不適切に思えた。５分という短い番組だが、ナレーションが聴きづらかったうえ、映像もぶれていたので見づらかった。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を参考に、適切な番組編成を検討するなど配慮していきたい。

○　６月５日(土) さんいんスペシャル　釣りびと万歳「高級魚キジハタと縁結び～お笑い芸人テツ　島根・出雲～」(総合 前7:30～7:55 中国ブロック)を見た。テツａｎｄトモのテツさんがルアー釣りに挑む様子や、近隣の民宿でのグルメ紹介、日御碕周辺の美しい風景などを、田中美佐子さんのナレーションとともに心地よく見ることができた。ルアー釣りの仕組みについてアニメーションを用いて紹介する場面などもあり、釣りに精通していない視聴者でも十分に楽しむことのできる内容だった。一方、いくつかの場面で過度な色補正を行っているように見えた。天候状況にもよると思うが、きれいな風景に無理矢理仕立てようとせず、ありのままの様子を伝えてもいいのでは。

（ＮＨＫ側）

数日間にわたって屋外でロケを行うと、撮影した時刻や天候でそれぞれの映像の明るさや色彩に顕著な差が生じてしまうことがあるため、その場合は色補正作業が必要になるが、頂いた意見は今後の参考にしたい。

○　６月１１日(金)ラウンドちゅうごく「“鉄の街”はどこへ向かうのか　～製鉄所閉鎖の波紋～」(総合 後7:30～7:55 広島県域)を見た。呉市は重工業をはじめ産業の盛んな街という印象があったので、この番組を見て衝撃を受けた。約3,000人の従業員のこれからの暮らしや呉の街の今後について非常に気になっている。製鉄所に関わる人々の思いを丁寧に取材していたが、地域に暮らす人々の心のうちも聞きたかった。地域経済のあり方は視聴者の大きな関心事項の一つであり、今後もさまざまな角度から取材を続けてほしい。地域や社会を考えるきっかけになるような番組の制作を期待したい。

（ＮＨＫ側）

製鉄所の閉鎖は、呉市だけにとどまらず広島県にとって大きな課題

の１つであると認識している。製鉄所に関わる人々や地域住民、街のあり方など、多角的に取材を続けていく。

○　６月１１日(金)@ｏｋａｙａｍａ　開局９０年特別番組「大切なことは岡山が教えてくれた　総集編」を見た。ニュース映像とその時代の音楽に合わせて岡山県と岡山局の歴史を振り返るとともに、過去に在籍したアナウンサーによる当時の逸話の紹介や岡山県への思いなどをそれぞれの飾らない言葉で聞くことができ、とても楽しく見ることができた。取材を受けるたびに感じるのだが、ＮＨＫのアナウンサーは対象を深く知ろうと多くの質問を準備するなど丁寧な取材を行っている印象がある。こうした取材姿勢は今後も受け継いでいってほしいと思う。

（ＮＨＫ側）

歴代のアナウンサーは、番組出演や取材活動を通じて岡山県の視聴者に育てていただいた。真摯（しんし）に取材を行う姿勢は、今後もしっかり受け継いでいきたい。

○　６月１１日(金)さんいんスペシャル「地方で暮らすＬＧＢＴｓのわたし」を見た。自治会の集まりで主人公が自分の性自認について打ち明けるシーンでは、テレビカメラの存在を感じさせず地元の方の率直な意見をよく引き出せていた。また、旧来の性別観や性役割で考える人々との議論が、平行線をたどりかみ合わなくなってしまうような現実も映し出されていた。番組の終盤では周囲の人が理解を示す場面もあり、自分の意見を発信することで周囲の関心を引いたり、価値観の変容を促したりすることができると感じた。今後も、さまざまな立場や価値観を持つ人を取り上げた番組を制作してほしい。

○　さんいんスペシャル「地方で暮らすＬＧＢＴｓのわたし」を見た。恋愛感情を持たないという主人公が、移住先の島根県の小さな集落で自分らしく生きようとする姿に密着していたが、「結婚しない」という告白を聞いた集落の人々の戸惑いをはじめ、従来の性別観が根強く残る地域の人々との感覚のずれが随所に感じられ、難しい問題だと痛感した。上戸彩さんのナレーションも印象的で、非常に力のある番組だった。

（ＮＨＫ側）

地方で暮らすＬＧＢＴｓの方を取り上げた番組はあまりなかったので、信頼関係を築きながら丁寧に取材して番組化した。松江局ではこの番組をきっかけに特設サイト「私たちはここにいる」を開設し、ＬＧＢＴｓの人々の声を紹介しているほか、ミニ番組を制作して放送するなどの取り組みも行っている。ナレーションについては、ドラマで性同一性障害を持つ役を演じたこともある上戸彩さんにお願いした。

○　６月１１日(金)Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　コロナ禍でも心に彩りを」を見た。コロナ禍が社会に大きな影響を与える中でも、前向きに生きようとする地域の人々の様子や地域への愛情が描かれており、とても好感が持てる内容だった。番組で取り上げた地域も、周防大島町、下関市、宇部市、山口市とバランスよく選ばれていた。また、開局８０周年を機に放送を開始したミニ番組「きょうも１分間、深呼吸。」は見ていてリフレッシュできる番組で、シリーズの新作を楽しみにしている。

○　Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　コロナ禍でも心に彩りを」を見た。見ていて気分が安らぐ内容だった。アナウンサーの雰囲気が番組の内容に合っていてとてもいいと感じた。一方で、今回４つの地域の話題を取り上げていたが、中にはもっと見たいと思ったエピソードもあり、内容に応じて時間の長短をつけた方がよかったと感じた。「情報維新！やまぐち」内の企画の直近３か月分の総集編であるためか、季節感が合わない内容があったことも気になった。昨年の同時期に取材した内容から選ぶことも検討すべきではないか。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を参考に、今後工夫していきたい。

○　６月１２日(土)@ｏｋａｙａｍａ「もんげー香ばしい　パンの秘密」(総合 前7:30～7:55 岡山県域)を見た。岡山市はパンの購入量が全国１位ということで、パンにまつわるさまざまな話題が紹介されており、若い世代にも見やすいであろう楽しい番組

だった。岡山県でパンが好まれる理由として、国際日本文化研究センターの磯田道史教授が出演し、岡山県内の小麦生産量の多さに加え、工業化の進展に伴い手軽に食べられる利便性が好まれたことについて言及しており、新たな見立てに感心した。「@ｏｋａｙａｍａ」は、岡山県民が親しみを持てるような話題を取り上げており、肩肘張らずに見られてよい。これからも岡山県の魅力を発信し続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

土曜日の朝に放送したことは適切だったようで、多くの好評意見をいただいた。今後も岡山県の魅力を伝えていくとともに、地域の課題もしっかりと拾い上げる番組を制作していく。

○　６月１４日(月)～１６日(水)「しまねっとＮＥＷＳ６１０」内の「水害から命を守る」の一連の企画を見た。１４日(月)の放送では、最新のＡＲ技術を用いて松江市の水害リスクを可視化した映像が紹介され、想定されるリスクを身近に捉えることができた。松江市の担当者による災害に伴うリスクに関する解説もためになった。吉光松江放送局長が出演し、企画の意義を自らの言葉で伝えていたのもよかった。１５日(火)の放送では水害タイムラインの活用がテーマだったが、活用されづらい実態や行政の運営の難しさについてしっかり取材されていると感じた。先進地の事例紹介や、スタジオ解説での具体的な問題提起と運用の提案があったのもよかった。１６日(水)放送のマイタイムラインの作成について具体的な説明でわかりやすく伝えていたが、職場や旅先におけるマイタイムラインのあり方についての議論があってもよかったのでは。

（ＮＨＫ側）

国民の安全・安心、命や暮らしを守ることは公共メディアの使命であり、防災・減災に役立つ情報を放送やインターネットなどを通じて今後もわかりやすく伝えていく。

○　５月１９日(水)ＮＨＫ地域局発　ラウンドちゅうごく「サステナ旋風でファッションが変わる　変革に挑む！地元メーカー」を見た。ファッション産業に起因する環境汚染の深刻な現状について具体例を挙げながら伝えており、問題点もしっかりとまと

められていた。中国地方の企業の環境に配慮した取り組みが紹介されていたことや、視聴者も自らの消費行動で環境に配慮することができると伝えていた点がすばらしいと思った。出演していた冨永愛さんの言葉も視聴者の心に響いたのではないか。ファッション業界の問題に関連して、中国の新疆ウイグル自治区で栽培された綿花を使用したとされる衣料品について、アメリカが日本企業の製品の輸入を差し止めていた動きについても伝えてほしいと思った。

（ＮＨＫ側）

中国地方には環境に配慮しながら技術的にも高い評価を得ているメーカーが多数存在しており、引き続き取材していきたい。

○　６月１１日(金)「ニュース　きん５時」を見た。「コロナ禍・残高２３円？若者の貧困が増加　お供えもので家庭支援」という企画で、行政を介さず食料の支援や現金の給付を直接行っているＮＰＯ法人の取り組みについて紹介していた。ＮＨＫが全国放送で取り上げたことにより、支援を積極的に求める動きやこの取り組みに賛同する寄付に結びついたのではないか。多岐にわたる支援方法の創造や、支援者側が積極的に支援できる仕組みづくりのきっかけになり得る、とてもいい内容の番組だった。

○　ＮＨＫプラスを頻繁に利用していてとても便利だと感じている。追加の負担なく放送後１週間は番組を視聴できる点や番組情報をシェアできる点など、ＮＨＫプラスのメリットやおもしろさを積極的にＰＲすれば、受信料制度への理解がより進むのではないか。「特別あて所配達郵便」を利用して受信料を徴収するのではという報道があったが、ＮＨＫは自信をもって番組を視聴者に問うていくべきだと思う。以前、ローカル番組の見逃し配信が難しいということだったがその後の進捗と、中国地方のプレイリストに掲載される番組の選定方法についてそれぞれ聞きたい。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫプラスにおけるローカル番組の見逃し配信については、中国地方向けに放送する総合テレビ・金曜日午後 7:30～の番組を中心に、総合テレビ・土曜日午前 10:55～の一部の番組も配信している。６月か

らは、域内各局の県内向けローカル番組についても月に１～２本程度の見逃し配信を開始した。中国地方のプレイリストに掲載される番組の選定だが、ローカル番組に加え、中国地方に関連する全国放送の番組もプレイリストに加えている。今後も配信できる番組を増やせるよう進めていく。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年５月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島拠点放送局（ウェブ開催）において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２０年度中国地方放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、６月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊藤　康丈　（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
笠原　　浩　（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
坂本　直子　（走健塾　ランニングアドバイザー）
鷲見　寛幸　（大山町教育委員会　教育長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
古市　了一　（株式会社ふるいち　代表取締役）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　４月１６日（金）ラウンドちゅうごく「やっぱり一緒に食べたいね　～コロナ禍のこども食堂～」を見た。こども食堂に集う人々の背景がよく取材されていてよかった。鳥取県の事例として紹介されていたが、高齢者に運営上の役割を担ってもらうという考え方は、地域活動において大切な姿勢だと気づかされた。京都大学の藤原辰史准教授の説明には説得力があり、新型コロナウイルス感染拡大によってこれまで多くのことを家庭に任せすぎていたという問題点が浮き彫りとなる中、こども食堂に代表される地域の緩やかなつながりは現代社会の要請に応えるものだということがよく分かっ

た。

（ＮＨＫ側）

藤原准教授は島根県ご出身で中国地方の地域事情にも明るく、今後も地域にゆかりのある識者への出演依頼を検討したい。

○　４月１６日（金）ＮＨＫ山口放送局　開局８０年特別番組「ハチマキＴＶ～その一歩に、エールを。～」（総合 後7:30～8:42 山口県域）を見た。番組冒頭から音楽や映像に躍動感があり、見ていて気分が高揚した。アナウンサー二人の軽妙な進行や、別のスタジオで視聴者からのメッセージを紹介するという新鮮味のある演出もよかった。また、地域のために奮闘する人々の活動や思いがよく伝わり、心を打たれた。ただ、視聴者からのメッセージ紹介がつたなかったことや、出演者がひじをついて話をする場面があったことは残念だった。

○　ＮＨＫ山口放送局　開局８０年特別番組「ハチマキＴＶ～その一歩に、エールを。～」を見た。山口県内各地で奮闘する人々を紹介する温かみのある番組で、見ていて勇気づけられた。ただ、多くの出演者がそろいのＴシャツを着用する中にスーツ姿の出演者がいたので、統一感が無いように感じられた。開局８０年の取り組みを今後どのように展開する予定か伺いたい。

（ＮＨＫ側）

山口県民を応援して元気づけたいと考え、幅広い地域の人々の活動を取り上げて制作した。若手主体で企画し、親近感を持ってもらえるよう努めた。今後も県内の奮闘する人々を取材し、特集番組を制作する予定だ。

○　５月７日（金）ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない　～没後７０年　原民喜の言葉～」を見た。お笑い芸人で作家の又吉直樹さんと作家の梯久美子さんによる対談と、俳優の橋本愛さんによる原民喜の作品「鎮魂歌」の朗読という内容で、一緒に作品を読み進めているかのような感覚を抱き、構成と人選の妙を感じた。又吉さんの

作品の捉え方は的確で、コメントにも説得力があった。また、東日本大震災でみずからも被災しながら、同じく被災した友人の思いに耳を傾ける澤正宏さんの生き方を通して、原爆と東京電力福島第一原子力発電所事故の間に、人々の悲しみや嘆きという面から共通項を見出すなど、構成力の高さを感じた。

○　ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない　～没後７０年　原民喜の言葉～」を見た。出演者が豪華で、特に原爆文学を読み込んでいるという作家の平野啓一郎さんのことばには説得力があった。原爆と東京電力福島第一原子力発電所事故の共通点もよく伝わったが、鎮魂歌に影響を受けたという澤さんの文学研究者としての肩書きが番組で紹介されなかったこともあり、なぜ澤さんを取り上げたのか見ていて釈然としなかった。また、原民喜が自殺に至る経緯を丁寧に説明しないと、他者の嘆きを背負うことがすなわち自殺につながるという誤解を生むのではないかと懸念を抱いた。

○　ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない　～没後７０年　原民喜の言葉～」を見た。原民喜という作家や鎮魂歌という作品についての知識を有している視聴者に向けた番組だったように感じ、ゲストのコメントも作品のどの一節に対するものなのか分からず、内容があまり理解できなかった。また朗読のシーンでところどころカメラを見つめ演技のように朗読していたため客観的に聞くことができず、演出の手法に違和感を覚えた。

○　ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない　～没後７０年　原民喜の言葉～」を見た。原民喜の作品「鎮魂歌」が注目を集めていると番組冒頭で紹介されていたが、原民喜についての知識を持っていなかったため、注目されているという点にあまり共感できず、視聴意欲がわかなかった。

○　ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない　～没後７０年　原民喜の言葉～」を見た。起承転結が明確なよい構成であり、妻の早世という一つの死と原爆による無数の死とを対比して描くという展開方法にも感心した。一方で、ゲストの口調が番組の雰囲気にそぐわないようにも感じられ、ゲストが進行を務める必然性を感じなかった。

（ＮＨＫ側）

原民喜が亡くなった人々の悲しみや嘆きを引き受けて生きたことを伝える一方で、それらの感情は個人で抱え込まず社会全体で受け止めたほうがよいという考え方も伝えられるように努めた。原民喜について知らない人のために、より丁寧に紹介すべきとの意見は、今後の参考にしたい。原民喜とその作品を身近に感じて番組を見てもらいたいという考えから、ゲストを選んだ。

○　５月７日（金）１４日（金）Ｙスペ！「山下健二郎　バイクひとり旅～疾走２００ｋｍ　山口の絶景を体感～」を見た。山下健二郎さんの視点で、山口県の道路や自然がよく映し出されていた。山下さんが出演することになったいきさつと、この番組の放送された地域を伺いたい。

（ＮＨＫ側）

中国地方で放送した３８分の番組を再構成し、５９分の番組をＢＳ１で全国放送した。さらに、山口県域向けに２回に分けて放送した。バイクが好きで、若者へも影響力を持つ山下さんに出演を依頼した。

○　５月１０日（月）「もぎたて！」を見た。一昨年までのような大型連休中の楽しい話題の紹介が無かったことで、かえって日常のありがたさを実感した。緊急事態宣言再発出前後の放送では、新型コロナウイルス関連ニュースのあとに和やかな話題も伝えるなど制作者の配慮を感じる一方、見ていて複雑な気持ちも抱いた。新型コロナウイルスの影響で地域経済は相当の打撃を受けているため、これまで以上に困っている人々を取材して声を伝えてほしい。補助金の申請などを伝える際に県のホームページへ誘導することがあるが、インターネットから情報を得ることが難しい視聴者もいるので、放送でも申請方法を丁寧に伝えてほしい。ニュースの見出しと写真を６分割して画面に表示する取り組みが最近始まったようだが、番組を途中から見る視聴者にも分かりやすくてよいと思う。

（ＮＨＫ側）

新型コロナウイルス関連のニュースとそれ以外のニュースについては、適切な比率を考えながら伝えていきたい。インターネットから情報を得ることが難しい視聴者に対して情報提供することもＮＨＫの使命の一つと考えており、意見は今後の参考にしたい。６分割の表示については、視認性を高めるため今年度から新たに始めた。

○　５月１４日（金）ラウンドちゅうごく「新型コロナ　いま求められるケア」を見た。岡山大学病院のコロナ・アフターケア外来に来院した患者が訴える症状について、その割合を表すグラフを示していたが、あくまでも後遺症を抱える受診者２３名の中での割合であることを丁寧に伝えないと、さまざまな後遺症の症状が多くの人に現れると誤認させかねないように感じた。また、ＰＣＲ検査が陰性でも後遺症のような症状が続く人がいると伝えていたが、その理由が判然としなかったほか、ノンフィクション作家の柳田邦男さんがコメントしていた理由もよく分からなかった。なじみの無い専門用語も使用されており、理解しやすいようぜひ注釈を付してほしい。番組末尾で、新型コロナウイルス収束に向けて社会は歩き始めているとのナレーションがあったが、感染拡大が続く情勢下にそぐわない表現だと感じた。

（ＮＨＫ側）

柳田さんは尊厳死などをテーマに取材や著作活動を行っており、出演を依頼した。専門的な外来語は適切に訳語を付すなどして、分かりやすい説明を心がけたい。また新型コロナウイルスについては、今後も関連番組を制作していく。

○　５月１４日（金）＠ｏｋａｙａｍａ「緊急事態宣言で岡山は？」を見た。緊急事態宣言の再発出が決定した当日の時宜を得た放送で、急な番組変更にも関わらず内容も充実したものだった。特に、岡山市立市民病院の今城健二副院長のことばからは切迫感が伝わりよかった。まん延防止等重点措置と緊急事態宣言の違いについての説明が丁寧で、また緊急事態宣言下では具体的にどのような行動をとるべきか一般の視聴者にも分かりやすく伝えていた。

（ＮＨＫ側）

切迫した状況を岡山県の視聴者の方々に当事者意識を持って捉えてほしいと考え、当日に番組内容を変更して岡山県民の関心に応える番組を放送した。

○　５月１４日（金）さんいんスペシャル「とっとり　しまね　校歌百景」を見た。誰の心の中にもある校歌について多角的な視点で掘り下げた番組で、島根県と鳥取県のすべての小学校の校歌を分析しており、取材制作力の高さに感心した。また、両県の校歌に共通して大山という単語が歌詞に多く含まれていたことから、松江局と鳥取局が合同で制作する意義も感じられた。一方で、ゲストのタレントは、校歌というテーマと何か関係があっての出演なのか、疑問に思った。また、アナウンサーとリモート出演のゲストの発言が重なってしまうなど生放送が裏目に出た点もあったように感じた。

○　さんいんスペシャル「とっとり　しまね　校歌百景」を見た。途中から見る視聴者のためにも、校歌が流れている場面では校名などを常時表示してほしい。また、副題に百景とあるが、番組は大山に焦点を当てて制作されており、タイトルとテーマにそごがあるように感じた。生放送の演出やゲストの起用もそれぞれ必要性が感じられず、むしろ番組の進行を悪くしていたように感じた。代わりに学校の統廃合によって地域の風景が変わっていくことに対する地域住民の思いなどを伝えることにより多くの時間を割いてほしかった。また、大山から離れた鳥取県東部でも大山という単語を歌詞に含む校歌があるようだったが、どのように表現されているのか詳しく知りたかった。番組の中で視聴者からのお便りを紹介する場面があったが、紹介されたお便りの数が少ないうえ番組の趣旨と関わりの少ないものだったので残念だった。

（ＮＨＫ側）

昨年、夕方のニュース情報番組「いろ★ドリ」の中で鳥取県の校歌を調査する企画があり、その際は鳥取県各地の風景を取り上げたが、今回は松江局と協力し島根県まで調査範囲を広げて取材したところ、県境付近にある大山に焦点を当てた。ゲストについての意見や、生放送とい

う手法については今後の参考としたい。

（ＮＨＫ側）

少子化に伴う学校の統廃合も進む中、改めて故郷に思いを寄せる機会を提供できるよう、続編の制作も検討したい。

○　最近の「ラウンドちゅうごく」は地域色が薄く感じられ、全国放送番組を念頭において制作されているようで残念だ。

（ＮＨＫ側）

中国地方の５県の話題に焦点を当てて制作している。社会問題や政治問題は全国に通じるテーマでもあるため地域色が薄く感じられるかもしれない。今後もきめ細かく地域の情報を伝えていきたい。

○　５月９日（日）ＮＨＫスペシャル「被曝（ばく）の森２０２１　変わりゆく大地」を見た。研究者による継続調査をよく取材していたが、森の再生を自然の回復力に頼るような番組終盤の論調は、研究者や地域住民の思いとそごがあるのではないかと感じた。

○　５月１８日（火）クローズアップ現代＋「動物園はコロナ禍に負けない！あの有名動物園も」を見た。新型コロナウイルス感染拡大により苦境が続く全国各地の動物園の取り組みを紹介していた。中にはクラウドファンディングにより、新たにキリンを受け入れたといった明るい話題もあり希望を持つことができた。また、旭山動物園の坂東元園長のインタビューからは動物の命を預かっているという覚悟が感じられ、共感を持って見ることができた。厳しい状況の中で希望を見いだそうと模索する公共施設や文化芸術を支える人々の姿を今後も継続して伝えてほしい。ＮＨＫプラスをはじめインターネットへの展開や、全国各地の放送局と連携した番組制作も評価したい。

（ＮＨＫ側）

過去の「ラウンドちゅうごく」でも動物園の話題を取り上げたが、全国の動物園に通じる普遍的な問題を伝えるため、広島局のディレクタ

ーが中心となり、本部とも連携しながら、取材範囲を全国に広げて番組を制作した。ＮＨＫプラスやＳＮＳへの発信も強化しているところだ。

○　土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」を見ている。好感度を上げたいという気持ちに翻弄される青年の姿を通して、事なかれ主義的だといわれる日本社会を風刺しているようで、秀逸な番組だと思う。

○　自然や文化を取り上げた番組が多いように感じるので、経済や人々の暮らしに関わる番組を増やしてほしい。

○　テレビ離れが進む中、イベントなどを通してＮＨＫの番組を身近に感じてもらえるよう検討してほしい。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局

２０２１年４月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）、広島拠点放送局において、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、５月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長　小嶋ひろみ　（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊藤　康丈　（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
坂本　直子　（走健塾　ランニングアドバイザー）
鷲見　寛幸　（大山町教育委員会　教育長）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　３月２０日(土)市民球団誕生７０年　広島カープの軌跡　プロジェクトＸ～挑戦者たち「史上最大の集金作戦　広島カープ～市民とナインの熱い日々～」（総合 前8:15～8:59 広島県域)、３月２１日(日) 市民球団誕生７０年　広島カープの軌跡　ＮＨＫスペシャル「もう一度投げたかった　炎のストッパー　津田恒美の直球人生」(総合 前8:00～8:52　中国ブロック)を見た。昨年放送した被爆７５年関連番組のアーカイブス編成の際には、番組の前後に専門家による解説やアナウンサーとの掛け合いがあって興味深く見ることができたが、今回はアナウンサーによる簡単な説明だけにとどまり、少しもの足りなさを感じた。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を参考に、今後の演出について検討していきたい。

○　「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」を見た。３月２５日(木)の「しまね特集」で地方銀行の業務が激変している様子を詳しく取り上げており、金融業界を取り巻く環境の世界的規模の変化が地域にも大きな影響を及ぼしていることがよく分かった。４月２日(金)の「しまね神(しん)発見」という新コーナーでは、地域に伝わるヤマタノオロチ伝説についてアニメーションを用いて分かりやすく説明していた。神話になじみがない地元の視聴者もいると思うので、意義のある取り組みだと感じている。アナウンサーがタブレット操作で映像を出す演出では、途中音声トラブルもあったが、新しいツールを用いて伝えようとする姿勢には好感を持った。「Ｗｅｅｋｌｙしまねっと」では、島根ＮＥＷＳＷＥＢの閲覧ランキングを伝えており、視聴者の興味の度合いを客観的に把握できて新鮮だった。このコーナーを番組終盤で伝えるのはもったいない気がした。新年度初回の放送からは、若手アナウンサーを中心に放送していく気概が感じられたので、インターネットやＳＮＳなども用いて同世代の視聴者に見てもらえるよう努めてほしい。

（ＮＨＫ側）

「しまね特集」は、３月１６日(火)「クローズアップ現代＋」で紹介できなかった内容を再編集して放送した。新年度から若手アナウンサーを中心に番組を進めており、学生や若い人たちに見てもらえるよう工夫を続けたい。

○　３月２６日(金)「＃カープどん底からの復活　～市民球団７０年　誕生の原点～」(総合 後 10:00～10:45　中国ブロック)を見た。開幕戦当日夜の生放送であったため、その日の試合について出演者がそれぞれ振り返るところから始まったが、試合を見ていなかった視聴者にとっては唐突感が否めず、試合の概要を番組冒頭で簡単に説明するなどの配慮が欲しかった。カープ球団の草創期を漫画で解説する演出は分かりやすく、ＳＮＳで投稿された視聴者からの感想とともに番組を見られたのはよかったが、シーズン序盤の放送なので、希望が感じられるタイトルの方がよかったのではないか。ルーレットで話す人を決めていたが、なくてもよい演出だと思った。

○　３月２６日(金)さんいんスペシャル　小さな旅「湯のぬくもり　いつもそばに～鳥取県三朝温泉～」(総合 後7:30～7:55 鳥取県域)を見た。人々へのインタビューや紹介された風景は、いずれも地域の雰囲気のよさが伝わるもので、時間をかけて丁寧に取材されていることが伝わってきた。三朝温泉の名前の由来や、お湯の効能など新たな情報を得ることができた。三朝温泉の魅力を改めて知ることのできるよい番組だった。

○　４月２日(金)ラウンドちゅうごく「“すべては勝つために”　～広島カープ　森下暢仁投手～」を見た。森下投手に密着取材し、その活躍の原動力や精神的な強さの源泉について、緻密なデータ分析や関係者への取材を通じて詳細に伝えていたため、論理的で分かりやすい納得感のある番組だった。森下投手が努力を積み重ねている姿を同世代の若い人たちにもぜひ見てほしい。

（ＮＨＫ側）

若い人をはじめ幅広い世代に見ていただくことができた。引き続き取材を続けたい。

○　４月３日(土)@ｏｋａｙａｍａ「“きれいな海”から“豊かな海”へ～転換期迎えた瀬戸内海～」(総合 前10:55～11:20 中国ブロック)を見た。コンビニエンスストアで売られているおにぎりののりをきっかけに、近年続くのりの色落ちからその原因となる海の“貧栄養化”をはじめとする瀬戸内海の環境について専門家の解説も交えて伝えており、それを瀬戸内海の見える場所で収録していたのがよかった。瀬戸内海環境保全特別措置法の改正が 2015 年に行われ、そこから現在に至るまで６年間の空白を感じてしまったが、今後もこうしたテーマを息長く掘り下げて継続取材してほしい。

（ＮＨＫ側）

質のよいのりが取れなくなってきたことに注目して取材を始めたため、ご指摘のような印象を与えてしまったかもしれない。地域の人々と瀬戸内海の関係について、継続して取材を行いたい。

○　４月８日(木)「お好みワイドひろしま」を見た。この日は参議院広島県選挙区再選挙の告示日で、今回の選挙の構図や焦点、論点の解説に加え、菅政権にとって初の国政選挙であり、他の補選とともに今後の政権の行方を占う重要な選挙であることなどがしっかりと説明されていた。今後予定されている主要な選挙についても概要が分かりやすく説明されておりとてもよかった。この選挙は、公職選挙法違反の罪で有罪が確定した河井案里元参議院議員の当選無効に伴って行われる選挙であって、本来必要のない再選挙である点や、広島県が全国の注目を集めてしまっていることを強調して伝えてほしかった。視聴者に投票に行くよう呼びかけを行ってもよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

４月２３日(金)「ラウンドちゅうごく」で今回の再選挙について詳しく取り上げるとともに、投開票日の４月２５日(日)には開票速報を総合テレビとラジオ第１でお伝えする。有権者の判断に資する情報をインターネットも含めて伝えるとともに、公平・公正、正確・迅速な報道を心がけていく。

○　４月８日(木)「もぎたて！」を見た。新コーナーの「もぎリサーチ」で「池田動物園のジャイアントパンダを追え」というテーマのもと、当時の県民の熱狂ぶりやパンダの愛らしい様子など、過去のニュース映像を活用してわかりやすく紹介していた。視聴者の疑問について取材し解決していく姿勢はとてもよい取り組みだと思った。

（ＮＨＫ側）

視聴者により興味を持っていただけるよう、工夫を重ねていきたい。

○　４月９日(金)ラウンドちゅうごく「バス新時代　始まった移動革命」(総合 後7:33～7:58 広島県・島根県域)を見た。人手不足に加えて新型コロナウイルス感染拡大の影響により公共交通機関が直面する厳しい現状や課題について番組冒頭で紹介しており、問題意識を持ちつつ番組を見ることができた。自動運転バスをはじめ将来の実用化に向けて進められている取り組みを紹介するのもよいが、地方において公共交通機関の維持が喫緊の課題であり、即効性のある解決策も提示した方がよいと感じた。ま

た中国地方だけでなく全国での取り組みついても、ぜひ取材して伝えてほしい。

○　ラウンドちゅうごく「バス新時代　始まった移動革命」を見た。バスに限らず公共交通のあり方や方向性については、都市部においても今後直面する課題であり、非常に深く考えさせられる番組だった。採算性を無視して取り組みを進めることができないという重要な点も的確に指摘しており、見応えがあった。

（ＮＨＫ側）

福井県での先進事例を短く紹介したが、今後もさまざまな取り組みについて取材を続けていく。

○　４月９日(金)@ｏｋａｙａｍａ「石に恋して　～北木島からのおくりもの～」を見た。４月３日(土)@ｏｋａｙａｍａ　開局９０年アンコール　小さな旅「石切り　心意気が響いて～岡山県笠岡市北木島～」(総合 前7:30～7:55 岡山県域)が放送されており、島の過去と現在を見比べることができてよかった。北木島といえば男性による砕石作業を思い浮かべがちだが、女性のアクセサリー作家が島の石を活用して作品を生み出していることを知り、とても新鮮に感じた。北木島の自然の美しさや島に関わる人々の絆を感じることのできるすばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

いろいろな視点から取材することで、地域の新しい魅力を伝えられると改めて感じている。

○　４月９日(金)さんいんスペシャル　うまいッ！「生でも安心！脂が甘～い！　養殖サバ～鳥取・岩美町～」(総合 後7:33～7:58 鳥取県域)を見た。加藤向陽アナウンサーの伝え方と表現が秀逸で、サバのおいしさがとてもよく伝わってきた。丁寧な取材や画像を用いた解説もあって、このサバを生でも安心して食べられる理由がよく理解ができた。しかしこのサバを普段見かけることはなく、探しても見つけられなかったので、流通経路がどうなっているのか知りたかった。

○　４月９日(金)Ｙスペ！「魅せます！開局８０年」(総合 後7:33～7:58山口県域)を見た。制作陣の熱意が伝わってくる番組で、生放送というのも新鮮でよかった。出演していた３名の番組スタッフと大村和輝アナウンサーの掛け合いがおもしろく、変わったカメラアングルや手書きのパターンを用いた演出など随所に工夫がみられた。文化財復元の第一人者で日本画家の馬場良治さんが山口局開局８０年を記念して描いた作品もすばらしかった。山口局のロビーで展示されている作品を実際に見に行きたいと感じた視聴者も多かったと思う。

（ＮＨＫ側）

馬場さんには2020年１２月８日(火)「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演いただいた縁で、開局８０年を機に「虹ケ浜に想う」という日本画を制作・寄贈していただいた。作品展示に加え、制作過程を８Ｋカメラで撮影したミニ番組を山口局のロビーで上映している。

○　３月１日(月)逆転人生「あの日“加害者”になった私　東電社員たちの１０年」を見た。原発事故後に福島へ赴いて賠償や除染作業などに携わった３人の東京電力社員の苦悩や葛藤、地元の人々との交流を描いていたが、東京電力の加害性についても一言触れてほしかった。一方、東日本大震災関連の「ＥＴＶ特集」や「ＮＨＫスペシャル」を見たが、どの番組も非常に丁寧に取材しており、これまで明らかにされていなかったことも深掘りするなど非常によい番組だった。これらは重いテーマで難しい取材を伴うと思うが､周囲に左右されず志を持ってこういった番組作りを続けてほしい。

○　３月２２日(月)プロフェッショナル　仕事の流儀「庵野秀明スペシャル」(総合 後7:30～8:45)を見た。番組冒頭から庵野さんと取材チームの緊張感のある関係性に引き付けられ、おもしろく見ることができた。しかし取材力や構成にもの足りなさを感じた。

（ＮＨＫ側）

ディレクターそれぞれの個性を生かしながら番組作りを進めていきたい。

○　「列島ニュース」を見ている。全都道府県に放送局をもつＮＨＫのネットワークが生かされており、他の地域のニュースを知ることができてとてもよい。文化や催し物を取り上げたニュースが多いと感じており、例えば全国各地の選挙結果をもっと放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

「列島ニュース」は各放送局の正午のニュースの中から選んで放送している。選挙結果は各地の翌朝のニュースで取り上げているほか、ＮＨＫのホームページにも掲載している。

○　「聖火リレーデイリーハイライト」を毎晩楽しみに見ている。５分という短い放送時間ではあるが、聖火ランナーの背景も紹介されており、頑張っている人の姿を見て元気になれる。以前は東京オリンピック・パラリンピック関連の番組が盛んに放送されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大以降はスポーツ関係の話題は置き去りにされている印象がある。取材が難しいという事情もあると思うが、東京オリンピック・パラリンピックは開催される予定なので、有名な選手・競技だけでなく、さまざまな競技の紹介や地元選手の特集など、地域放送局の強みを生かした番組を制作して、アスリートをぜひ応援してほしい。

ＮＨＫ広島拠点放送局
番組審議会事務局